

【表紙】

【提出書類】	訂正有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2023年6月9日提出
【発行者名】	三菱UFJ国際投信株式会社 2023年10月1日より三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更
【代表者の役職氏名】	取締役社長 横川 直
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【電話番号】	03-6250-4740
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金） 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。 三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金） 1兆円を上限とします。
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2022年12月9日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）について半期報告書の提出に伴う関係情報の更新および商号変更の予定記載等を行うため、本訂正届出書を提出します。

2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部__は訂正部分を示し、<更新後>に記載している内容は原届出書の更新後の内容を示します。

「第二部 ファンド情報 第1 ファンド状況 5 運用状況」は原届出書の更新後の内容を記載します。

なお、「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」において、「1 財務諸表」につきましては「中間財務諸表」が追加され、「2 ファンドの現況」につきましては原届出書の更新後の内容を記載します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<更新後>

当ファンドは、中長期的な値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざして運用を行います。信託金の限度額は、各ファンドについて、5,000億円です。

* 委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券	MRF	
追加型	内外	不動産投信	ETF	特殊型 ()
		その他資産 ()		
		資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年1回	グローバル	ファミリー	あり	日経225	ブル・ベア型
一般	年2回	(日本を含む)	ファンド	()	TOPIX	条件付運用型
大型株	年4回	日本	ファンド・	なし		
中小型株	年6回	北米			オブ・	
債券	(隔月)	欧州	ファンズ		その他	ロング・
一般	年12回	アジア			()	ショート型/ 絶対収益
公債	(毎月)	オセアニア				追求型
社債	日々	中南米				その他 ()
その他債券	その他	アフリカ				
クレジット	()	中近東				
属性		(中東)				
不動産投信		エマージング				
その他資産 (投資信託証 券(資産複合 (株式、債 券、短期金融 資産)資産配 分変更型))						
資産複合						

()						
-----	--	--	--	--	--	--

当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でご覧いただけます。

ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MRF及びMMFの運営に関する規則」に規定するMMFをいいます。
	MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MRF及びMMFの運営に関する規則」に規定するMRFをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
--------	----	----	---------------------------------

	大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。
	公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（BBB格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイールド債等（BBB格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信	信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。
決算頻度	年1回	信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年2回	信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年4回	信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年6回（隔月）	信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年12回（毎月）	信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
	日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象地域	グローバル	信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本	信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米	信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州	信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア	信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア	信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米	信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

	アフリカ	信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）	信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	TOPIX	信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型 / 絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

[ファンドの目的・特色]

ファンドの目的

日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産を実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざします。

ファンドの特色

投資対象

日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産を実質的な主要投資対象とします。

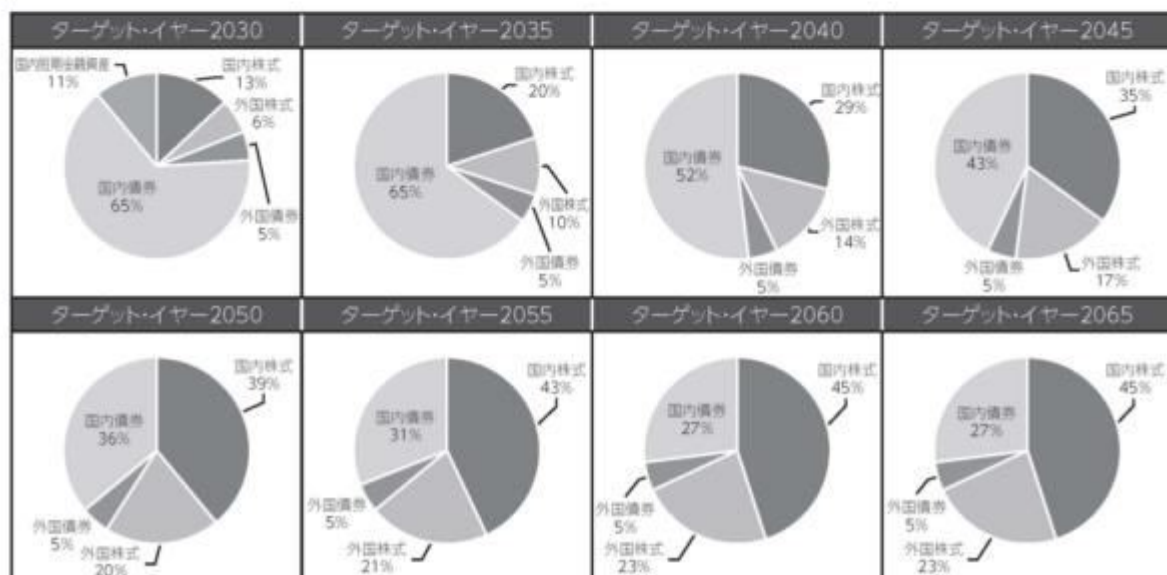
- マザーファンドへの投資を通じて各資産に実質的な投資を行います。

<マザーファンドの主要投資対象と運用目標>

	主要投資対象	運用目標
TOPIXマザーファンド	国内株式	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
外国株式インデックスマザーファンド	外国株式	MSCIロクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
日本債券インデックスマザーファンド	国内債券	NOMJRA-BPI総合と連動する投資成果をめざして運用を行います。
外国債券インデックスマザーファンド	外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
マネー・マーケット・マザーファンド	国内 短期公社債等	安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

運用方法 運用プロセス

投資家のみなさまの退職時期等の目標年次を「ターゲット・イヤー」とし、2030年、2035年、2040年、2045年、2050年、2055年、2060年、2065年をターゲット・イヤーとする8つのファンドからお選びいただけます。



- ① 三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)」、三菱UFJ「ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)」をそれぞれ「ターゲット・イヤー2030」、「ターゲット・イヤー2035」、「ターゲット・イヤー2040」、「ターゲット・イヤー2045」、「ターゲット・イヤー2050」、「ターゲット・イヤー2055」、「ターゲット・イヤー2060」、「ターゲット・イヤー2065」といいます。

② 四捨五入の関係で上記の数値を合計しても100%にならないことがあります。

③ 2023年3月末現在の基本資産配分です。

運用方法
運用プロセス

ターゲット・イヤーが近づくにしたがいリスクを漸減させ、ターゲット・イヤー到達後は投資比率を一定にすることを基本とします。

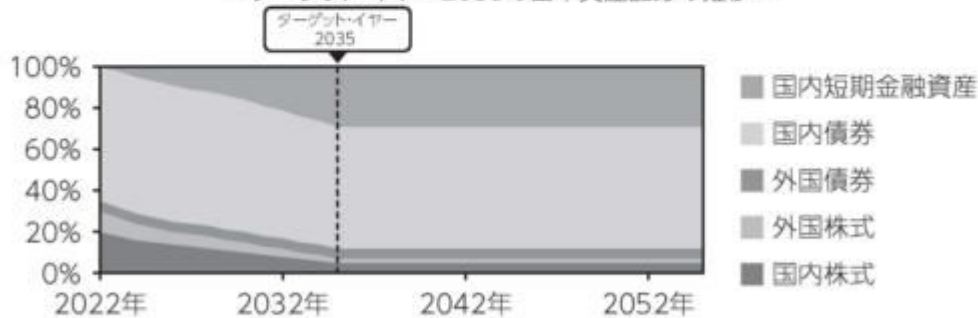
- 各ファンドにおいて、ターゲット・イヤーに接近する(運用期間が経過する)にしたがい安定性資産の比率を引き上げてリスクを漸減させます。
- 各ファンドにおいて、ターゲット・イヤー到達後は、安定性資産等を中心に各資産への実質的な投資比率を一定にすることを基本とします。

① 安定性資産とは、国内債券および国内短期金融資産をいいます。

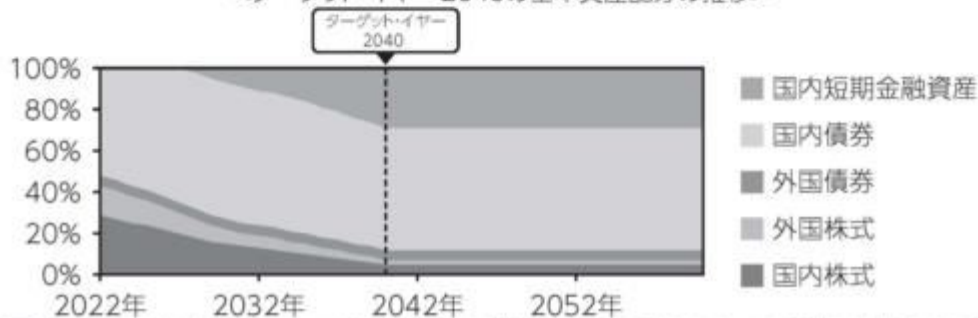
<ターゲット・イヤー2030の基本資産配分の推移>



<ターゲット・イヤー2035の基本資産配分の推移>

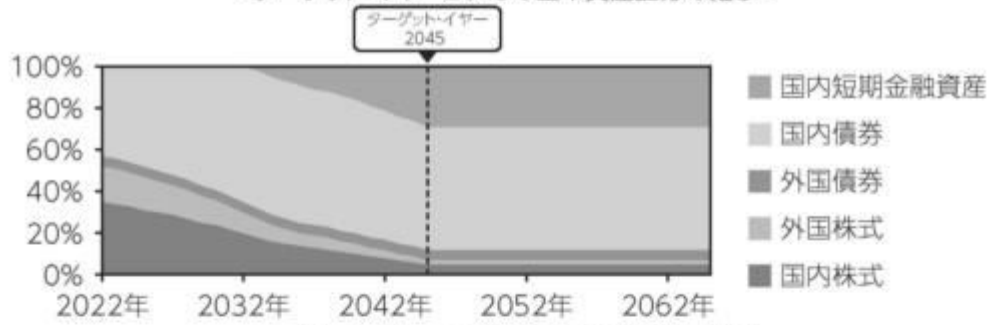


<ターゲット・イヤー2040の基本資産配分の推移>

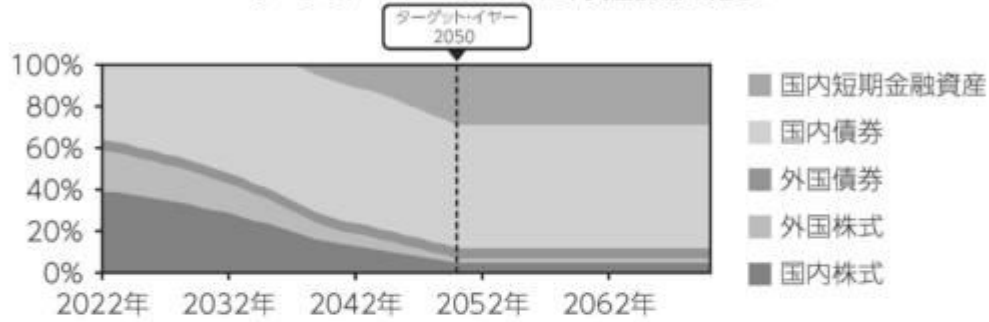


① 2023年3月末現在に計画している基本資産配分の推移であり、市況動向等によって組入比率が変更される場合があります。

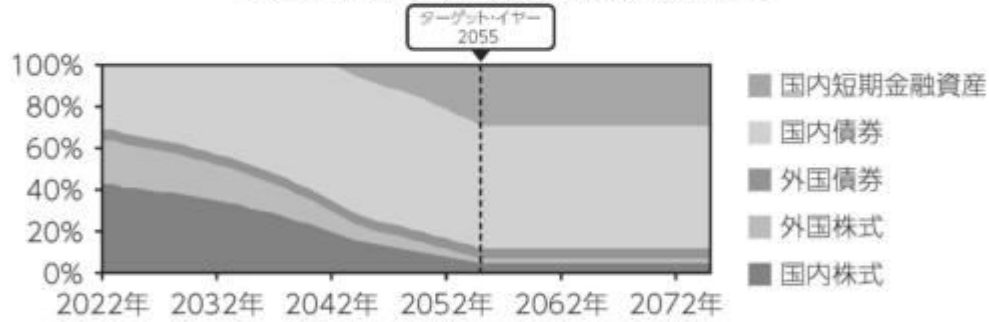
<ターゲット・イヤー2045の基本資産配分の推移>



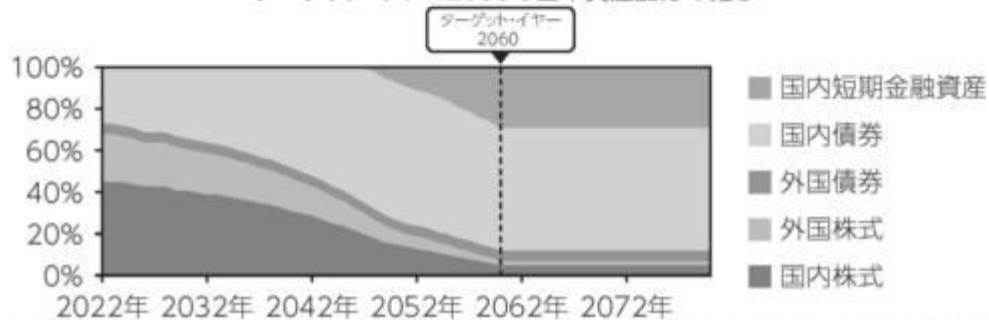
<ターゲット・イヤー2050の基本資産配分の推移>



<ターゲット・イヤー2055の基本資産配分の推移>

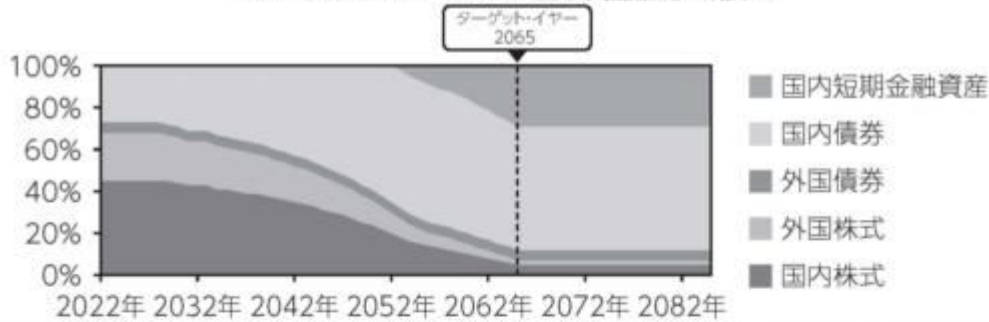


<ターゲット・イヤー2060の基本資産配分の推移>



■ 2023年3月末現在に計画している基本資産配分の推移であり、市況動向等によって組入比率が変更される場合があります。

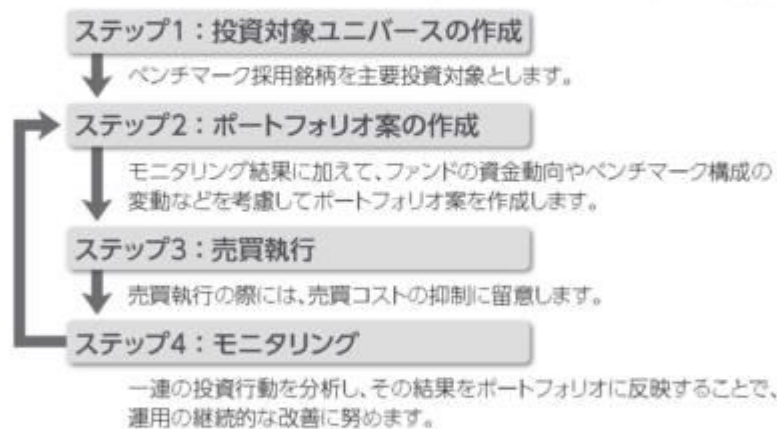
<ターゲット・イヤー2065の基本資産配分の推移>



■ 2023年3月末現在に計画している基本資産配分の推移であり、市況動向等によって組入比率が変更される場合があります。

<マザーファンドの運用プロセス>

(マネー・マーケット・マザーファンドを除きます。)



■ 上記の運用プロセスは変更される場合があります。また、市場環境等によっては上記のような運用ができない場合があります。

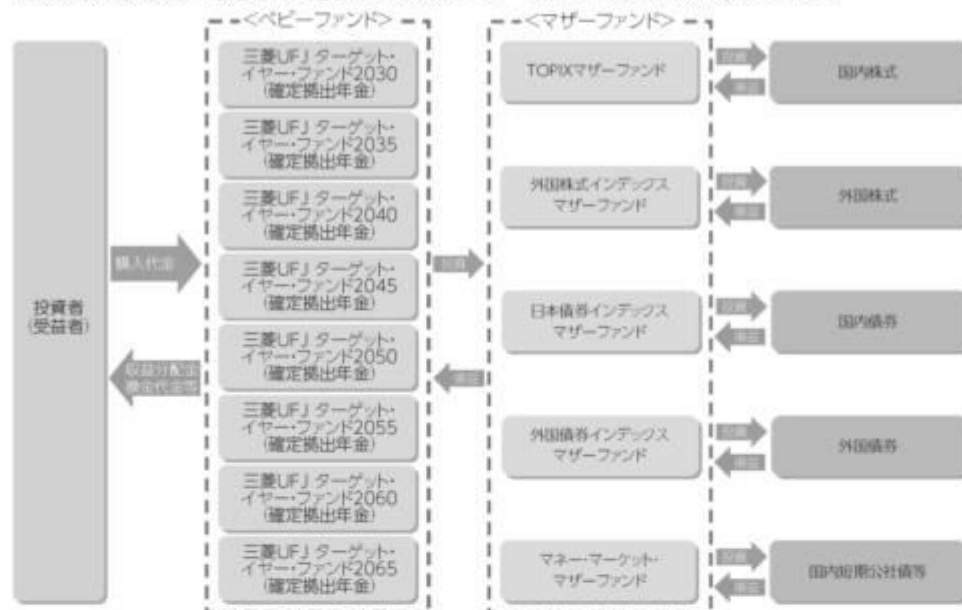
☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ (<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>) でご覧いただけます。

為替対応
方針

実質組入外貨建資産については、為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

■ファンドの仕組み

運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



■ 確定拠出年金プランによっては、取り扱わないファンドがある場合があります。

■主な投資制限

株式	株式への実質投資割合に制限を設けません。
外貨建資産	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
デリバティブ	デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

■分配方針

- ・年1回の決算時(9月10日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。
- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

指数について

・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。

MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

・NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

・FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)は、FTSE世界国債インデックス(除く日本)・データに基づき委託会社が計算したものです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(3)【ファンドの仕組み】

<訂正前>

委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

委託会社の概況(2022年9月末現在)

- ・金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
- ・設立年月日
1985年8月1日
- ・資本金
2,000百万円
- ・沿革
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更

2015年7月

三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を
三菱UFJ国際投信株式会社に変更

・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

<訂正後>

委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「投資信託受益権の取扱いに関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

委託会社の概況(2023年3月末現在)

- ・金融商品取引業者登録番号
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
- ・設立年月日
1985年8月1日
- ・資本金
2,000百万円
- ・沿革
1997年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
2004年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
2005年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更
2015年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更

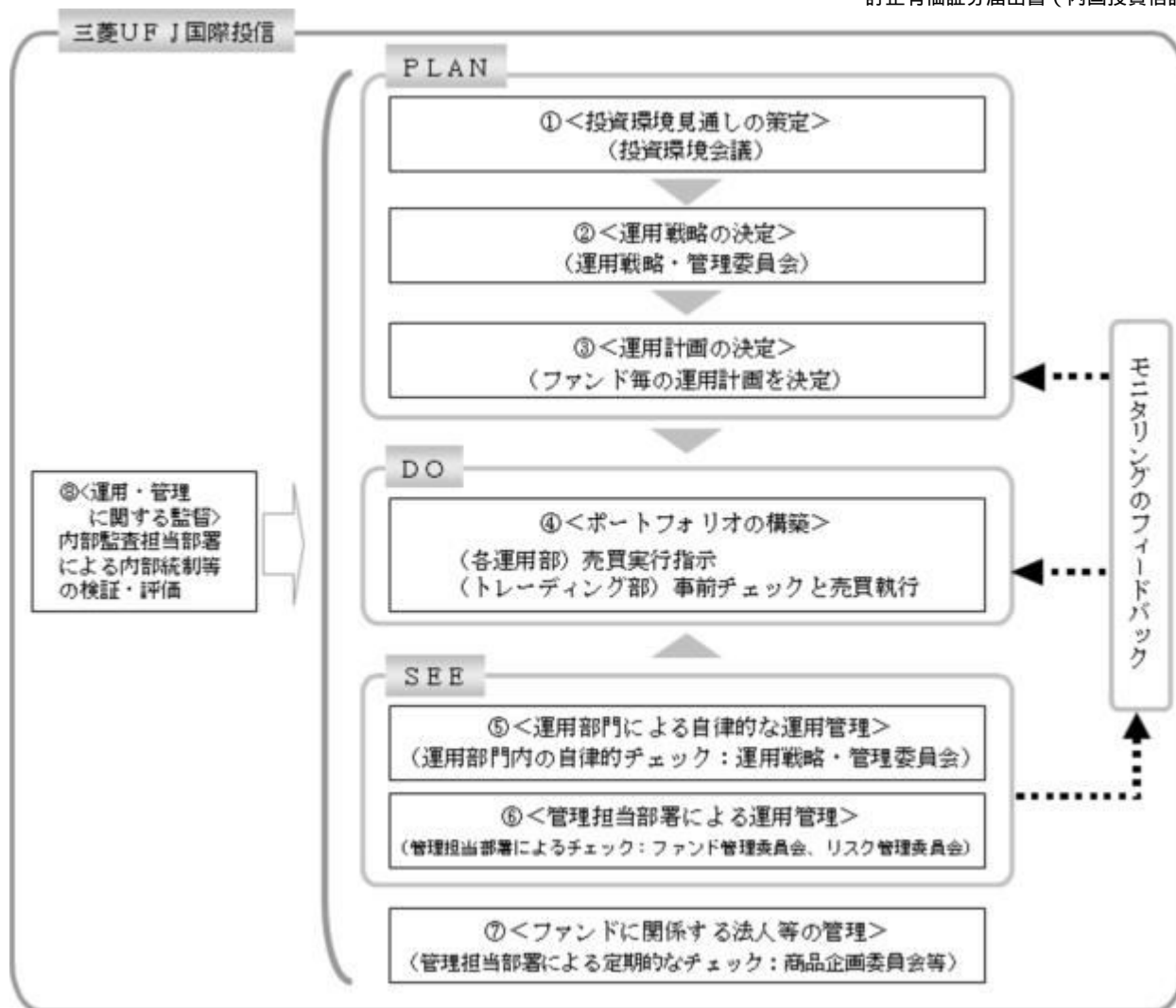
・大株主の状況

株主名	住所	所有株式数	所有比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	211,581株	100.0%

2【投資方針】

(3)【運用体制】

<更新後>



投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署（40～60名程度）は、（a）運用に関するパフォーマンス測定・分析、意図した運用成果が得られていない場合にはその原因の分析のほか、（b）リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、（a）についてはファンド管理委員会における審議を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、（b）についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

ファンドに関係する法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に関係する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。運用・管理に関する監督

内部監査担当部署（10名程度）は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

なお、委託会社に関する「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページでご覧いただけます。

「運用担当者に係る事項」 <https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>

3【投資リスク】

<更新後>

(1) 投資リスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

（主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。）

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動 リスク	組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。
信用リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

留意事項

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 有価証券の貸付等においては、取引先の倒産等による決済不履行リスクを伴い、当ファンドが損失を被る可能性があります。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実

勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

(2) 投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守のための管理態勢の状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

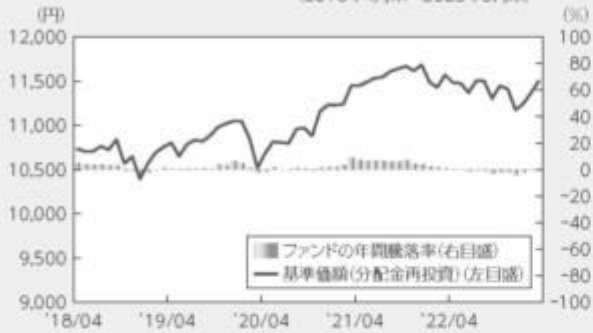
* 組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

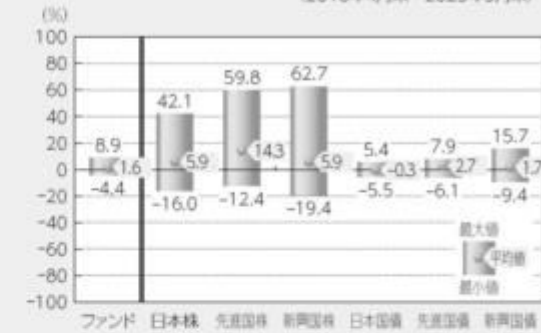
下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移 (2018年4月末～2023年3月末)



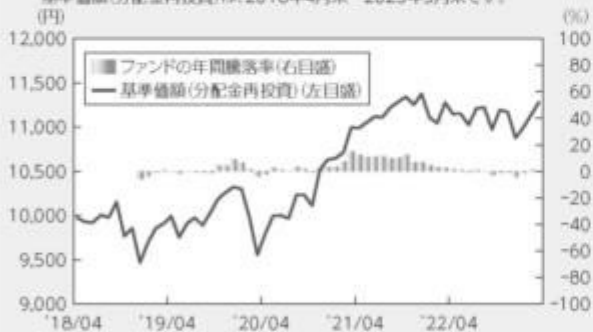
● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2018年4月末～2023年3月末)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移 ファンドの年間騰落率は、2018年12月～2023年3月です。 基準価額(分配金再投資)は、2018年4月末～2023年3月末です。



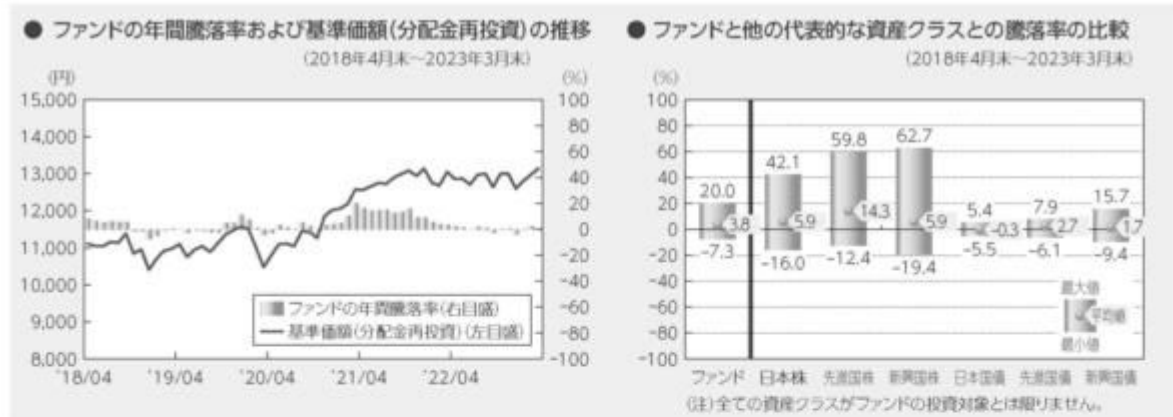
● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2018年4月末～2023年3月末) ファンドの年間騰落率は、2018年12月～2023年3月です。



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

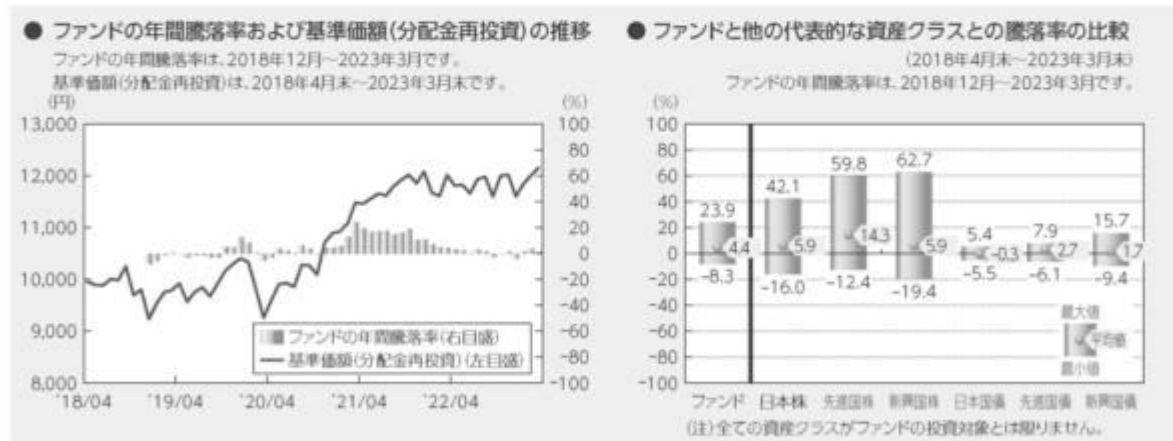
上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)



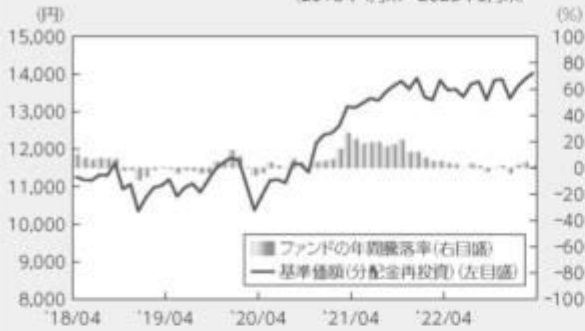
- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)

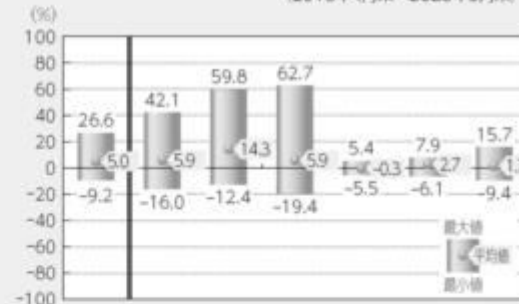
● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2018年4月末～2023年3月末)



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年4月末～2023年3月末)



ファンド 日本株 先進国債 新興国債 日本国債 先進国債 新興国債

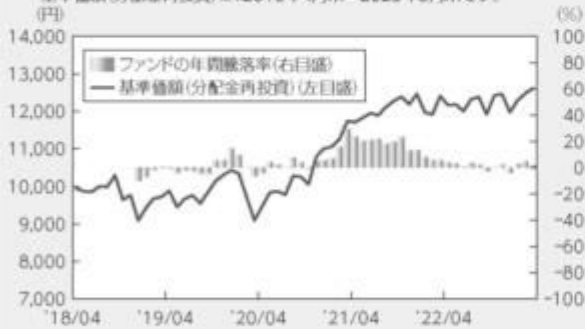
(注)全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

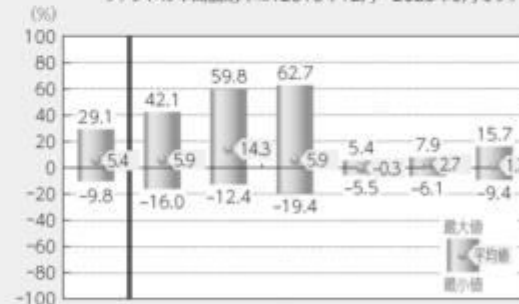
ファンドの年間騰落率は、2018年12月～2023年3月です。
基準価額(分配金再投資)は、2018年4月末～2023年3月末です。



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年4月末～2023年3月末)

ファンドの年間騰落率は、2018年12月～2023年3月です。



ファンド 日本株 先進国債 新興国債 日本国債 先進国債 新興国債

(注)全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

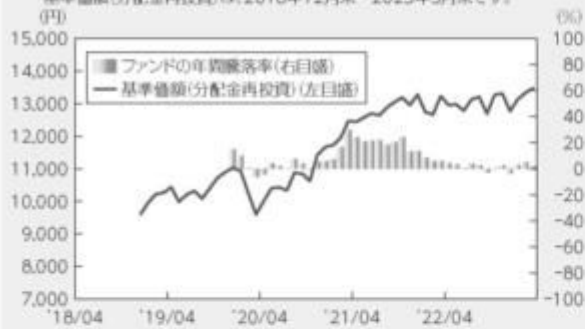
- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

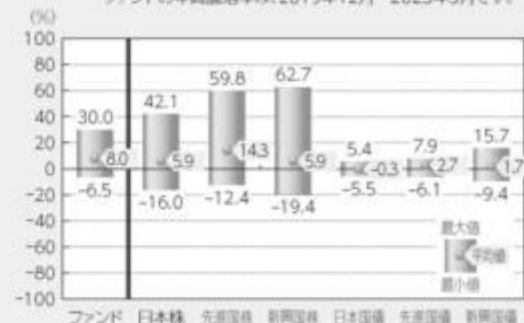
ファンドの年間騰落率は、2019年12月～2023年3月です。
基準価額(分配金再投資)は、2018年12月末～2023年3月末です。



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年4月末～2023年3月末)

ファンドの年間騰落率は、2019年12月～2023年3月です。



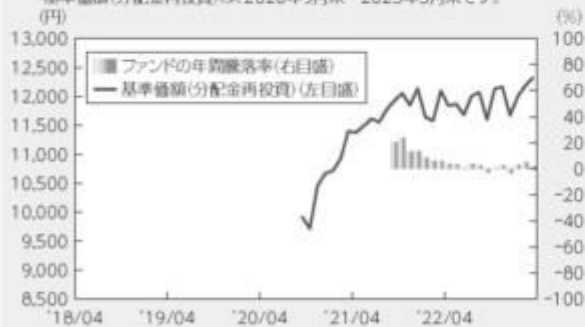
ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債
(注)全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)

● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

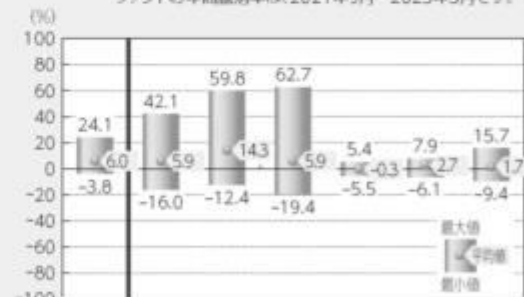
ファンドの年間騰落率は、2021年9月～2023年3月です。
基準価額(分配金再投資)は、2020年9月末～2023年3月末です。



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年4月末～2023年3月末)

ファンドの年間騰落率は、2021年9月～2023年3月です。



ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債
(注)全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、誤漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

4【手数料等及び税金】

(5)【課税上の取扱い】

<訂正前>

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて受益権の取得の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。上記以外の場合の課税の取扱いは、次の通りです。

個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

1. 収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金(特別分配金)は課税されません。

原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。なお、確定申告を行い、総合課税(配当控除は適用されません。・申告分離課税を選択することもできます。

2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費(申込手数料(税込)を含みます。)を控除した利益(譲渡益)が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

上記は2022年9月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<訂正後>

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて受益権の取得の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

上記以外の場合の課税の取扱いは、次の通りです。

個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

1. 収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金(特別分配金)は課税されません。

原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。なお、確定申告を行い、総合課税(配当控除は適用されません。・申告分離課税を選択することもできます。

2. 解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費(申込手数料(税込)を含みます。)を控除した利益(譲渡益)が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座(源泉徴収選択口座)を利用する場合、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失(譲渡損)については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得(申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。)との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%)の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料(税込)は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

上記は2023年3月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)】

(1) 【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

(単位 : 円)

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	17,831,393,602	99.01
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		179,180,038	0.99
純資産総額		18,010,573,640	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

令和 5年 3月31日現在

国 / 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	8,905,856,159	1.3034	11,607,997,652	1.3043	11,615,908,188	64.49
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	998,051,676	2.2987	2,294,276,895	2.4001	2,395,423,827	13.30
日本	親投資信託受益証券	マネー・マーケット・マザーファンド	1,754,869,549	1.0180	1,786,464,487	1.0181	1,786,632,687	9.92
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	235,389,504	4.8113	1,132,547,200	4.7710	1,123,043,323	6.24
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	395,699,386	2.3741	939,457,944	2.3007	910,385,577	5.05

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	99.01
合計	99.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成28年 9月12日)	3,163,282	3,163,282	9,680	9,680
第2計算期間末日 (平成29年 9月11日)	147,711,428	147,711,428	10,395	10,395
第3計算期間末日 (平成30年 9月10日)	222,991,141	222,991,141	10,638	10,638
第4計算期間末日 (令和 1年 9月10日)	490,650,770	490,650,770	10,851	10,851
第5計算期間末日 (令和 2年 9月10日)	2,093,920,696	2,093,920,696	10,965	10,965
第6計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	4,325,256,541	4,325,256,541	11,706	11,706
第7計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	11,034,738,990	11,034,738,990	11,518	11,518
令和 4年 3月末日	8,724,953,324		11,571	
4月末日	9,190,176,536		11,482	
5月末日	9,464,561,191		11,475	
6月末日	9,598,280,829		11,370	
7月末日	10,695,022,395		11,506	
8月末日	10,871,063,551		11,503	
9月末日	14,961,172,270		11,303	
10月末日	15,402,728,526		11,447	
11月末日	16,126,734,529		11,413	
12月末日	16,269,827,847		11,175	
令和 5年 1月末日	16,578,013,366		11,246	
2月末日	16,892,577,675		11,370	
3月末日	18,010,573,640		11,502	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	3.20
第2計算期間	7.38
第3計算期間	2.33
第4計算期間	2.00
第5計算期間	1.05
第6計算期間	6.75
第7計算期間	1.60
第8中間計算期間	1.14

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額）を控除した額を当該基準価額（分配額の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	3,267,919		3,267,919
第2計算期間	154,321,239	15,489,854	142,099,304
第3計算期間	106,482,794	38,973,089	209,609,009
第4計算期間	279,403,656	36,857,847	452,154,818
第5計算期間	1,576,441,133	118,989,891	1,909,606,060
第6計算期間	2,064,865,967	279,640,003	3,694,832,024
第7計算期間	6,582,833,915	697,472,199	9,580,193,740
第8中間計算期間	6,041,638,620	592,865,074	15,028,967,286

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）】

（１）【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	9,015,991,997	99.01
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		90,350,616	0.99
純資産総額		9,106,342,613	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和5年3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	4,417,542,939	1.3025	5,754,000,702	1.3043	5,761,801,255	63.27
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	772,357,343	2.3005	1,776,853,218	2.4001	1,853,734,858	20.36
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	197,312,615	4.8010	947,305,329	4.7710	941,378,486	10.34
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	199,538,140	2.3721	473,337,194	2.3007	459,077,398	5.04

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和5年3月31日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.01
合計	99.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位:円)

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成30年9月10日)	23,478,202	23,478,202	9,865	9,865
第2計算期間末日 (令和1年9月10日)	159,571,075	159,571,075	9,970	9,970
第3計算期間末日 (令和2年9月10日)	992,543,936	992,543,936	10,232	10,232

第4計算期間末日	(令和 3年 9月10日)	2,107,539,807	2,107,539,807	11,376	11,376
第5計算期間末日	(令和 4年 9月12日)	5,695,674,755	5,695,674,755	11,276	11,276
	令和 4年 3月末日	4,398,919,393		11,277	
	4月末日	4,571,424,488		11,148	
	5月末日	4,751,050,775		11,150	
	6月末日	4,895,142,753		11,025	
	7月末日	5,459,651,482		11,210	
	8月末日	5,611,839,188		11,223	
	9月末日	7,377,669,075		10,973	
	10月末日	7,663,099,696		11,194	
	11月末日	8,081,619,788		11,171	
	12月末日	8,150,623,169		10,877	
	令和 5年 1月末日	8,394,652,419		10,996	
	2月末日	8,581,126,901		11,139	
	3月末日	9,106,342,613		11,282	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	1.35
第2計算期間	1.06
第3計算期間	2.62
第4計算期間	11.18
第5計算期間	0.87
第6中間計算期間	1.00

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	24,925,133	1,126,259	23,798,874

第2計算期間	150,328,384	14,074,610	160,052,648
第3計算期間	892,830,669	82,870,310	970,013,007
第4計算期間	997,597,903	114,979,045	1,852,631,865
第5計算期間	3,473,234,760	274,626,465	5,051,240,160
第6中間計算期間	3,000,525,534	214,100,738	7,837,664,956

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）】

（1）【投資状況】

令和5年3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	9,046,456,366	99.01
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		90,325,971	0.99
純資産総額		9,136,782,337	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（2）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和5年3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 （円）	簿価 金額 （円）	評価 単価 （円）	評価 金額 （円）	投資 比率 （%）
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	3,514,269,859	1.3022	4,576,385,259	1.3043	4,583,662,177	50.17
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	1,119,760,122	2.3022	2,577,911,753	2.4001	2,687,536,268	29.41
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	276,201,038	4.8112	1,328,858,435	4.7710	1,317,755,152	14.42
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	198,853,727	2.3702	471,324,243	2.3007	457,502,769	5.01

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類/業種別投資比率

令和5年3月31日現在

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	99.01
合計	99.01

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成28年 9月12日)	1,689,104	1,689,104	9,342	9,342
第2計算期間末日 (平成29年 9月11日)	120,459,324	120,459,324	10,519	10,519
第3計算期間末日 (平成30年 9月10日)	211,100,530	211,100,530	10,984	10,984
第4計算期間末日 (令和 1年 9月10日)	485,276,001	485,276,001	11,020	11,020
第5計算期間末日 (令和 2年 9月10日)	1,551,166,416	1,551,166,416	11,439	11,439
第6計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	2,964,237,261	2,964,237,261	13,127	13,127
第7計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	5,968,772,026	5,968,772,026	13,107	13,107
令和 4年 3月末日	4,785,364,852		13,052	
4月末日	4,922,601,196		12,860	
5月末日	5,115,288,468		12,871	
6月末日	5,205,697,218		12,709	
7月末日	5,730,844,538		12,969	
8月末日	5,867,404,674		13,004	
9月末日	7,475,712,084		12,641	
10月末日	7,856,804,030		13,001	
11月末日	8,149,645,941		13,002	
12月末日	8,108,886,631		12,596	
令和 5年 1月末日	8,413,719,847		12,808	
2月末日	8,649,729,084		12,984	
3月末日	9,136,782,337		13,146	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円

第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	6.58
第2計算期間	12.59
第3計算期間	4.42
第4計算期間	0.32
第5計算期間	3.80
第6計算期間	14.75
第7計算期間	0.15
第8中間計算期間	0.61

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	1,808,058		1,808,058
第2計算期間	116,582,341	3,871,416	114,518,983
第3計算期間	102,928,864	25,265,473	192,182,374
第4計算期間	273,481,532	25,316,670	440,347,236
第5計算期間	987,113,947	71,382,507	1,356,078,676
第6計算期間	1,030,313,262	128,197,385	2,258,194,553
第7計算期間	2,595,476,935	299,959,924	4,553,711,564
第8中間計算期間	2,468,244,105	253,337,205	6,768,618,464

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）】

（１）【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国／地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	5,683,889,147	99.01

コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		56,613,030	0.99
純資産総額		5,740,502,177	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和5年3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受 益証券	日本債券インデックスマザーファン ド	1,813,603,307	1.3017	2,360,876,956	1.3043	2,365,482,793	41.21
日本	親投資信託受 益証券	T O P I X マザーファンド	845,704,607	2.2988	1,944,148,361	2.4001	2,029,775,627	35.36
日本	親投資信託受 益証券	外国株式インデックスマザーファン ド	209,905,545	4.7990	1,007,351,370	4.7710	1,001,459,355	17.45
日本	親投資信託受 益証券	外国債券インデックスマザーファン ド	124,819,130	2.3681	295,596,074	2.3007	287,171,372	5.00

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和5年3月31日現在

種類	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	99.01
合計	99.01

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成30年 9月10日)	15,108,774	15,108,774	9,837	9,837
第2計算期間末日 (令和 1年 9月10日)	77,621,673	77,621,673	9,816	9,816
第3計算期間末日 (令和 2年 9月10日)	550,251,454	550,251,454	10,269	10,269
第4計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	1,295,870,947	1,295,870,947	12,057	12,057
第5計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	2,974,637,281	2,974,637,281	12,104	12,104
令和 4年 3月末日	2,266,388,194		12,015	
4月末日	2,326,734,176		11,809	
5月末日	2,434,117,330		11,824	
6月末日	2,523,149,448		11,661	
7月末日	2,822,012,209		11,933	
8月末日	2,924,759,796		11,979	
9月末日	4,534,963,174		11,599	
10月末日	4,799,928,403		12,000	
11月末日	4,995,677,496		12,016	
12月末日	5,008,306,775		11,600	
令和 5年 1月末日	5,218,030,576		11,842	
2月末日	5,376,412,897		12,012	
3月末日	5,740,502,177		12,158	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	1.63
第2計算期間	0.21
第3計算期間	4.61
第4計算期間	17.41
第5計算期間	0.38
第6中間計算期間	0.37

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配の額）を控除した額を当該基準価額（分配の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	15,849,641	491,195	15,358,446
第2計算期間	77,368,247	13,652,892	79,073,801
第3計算期間	480,167,932	23,415,332	535,826,401
第4計算期間	610,955,955	72,024,430	1,074,757,926
第5計算期間	1,528,725,272	145,872,001	2,457,611,197
第6中間計算期間	2,301,948,673	195,415,391	4,564,144,479

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）】

（１）【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	5,805,222,662	99.02
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		57,691,909	0.98
純資産総額		5,862,914,571	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和 5年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	960,722,670	2.3015	2,211,103,226	2.4001	2,305,830,480	39.33
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	1,538,571,561	1.3017	2,002,862,548	1.3043	2,006,758,887	34.23
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	251,623,835	4.8138	1,211,286,198	4.7710	1,200,497,316	20.48
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	126,976,998	2.3725	301,255,335	2.3007	292,135,979	4.98

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類/業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.02
合計	99.02

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 （1万口当たりの純資産価額）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1計算期間末日（平成28年 9月12日）	2,174,386	2,174,386	9,145	9,145
第2計算期間末日（平成29年 9月11日）	68,939,089	68,939,089	10,530	10,530
第3計算期間末日（平成30年 9月10日）	139,517,902	139,517,902	11,113	11,113
第4計算期間末日（令和 1年 9月10日）	279,142,420	279,142,420	11,040	11,040
第5計算期間末日（令和 2年 9月10日）	850,896,790	850,896,790	11,608	11,608
第6計算期間末日（令和 3年 9月10日）	1,767,070,146	1,767,070,146	13,863	13,863
第7計算期間末日（令和 4年 9月12日）	3,374,627,164	3,374,627,164	13,965	13,965
令和 4年 3月末日	2,692,710,039		13,833	
4月末日	2,768,085,382		13,572	
5月末日	2,879,741,739		13,595	
6月末日	2,944,062,266		13,399	
7月末日	3,207,462,567		13,736	
8月末日	3,306,782,681		13,799	
9月末日	4,651,341,943		13,312	
10月末日	4,946,686,646		13,836	
11月末日	5,113,660,814		13,863	
12月末日	5,130,909,324		13,345	
令和 5年 1月末日	5,366,429,767		13,665	
2月末日	5,557,597,872		13,871	

3月末日	5,862,914,571		14,032
------	---------------	--	--------

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円
第6計算期間	0円
第7計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	8.55
第2計算期間	15.14
第3計算期間	5.53
第4計算期間	0.65
第5計算期間	5.14
第6計算期間	19.42
第7計算期間	0.73
第8中間計算期間	0.26

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	2,377,795		2,377,795
第2計算期間	67,846,488	4,753,439	65,470,844
第3計算期間	89,621,216	29,550,834	125,541,226
第4計算期間	152,123,052	24,819,648	252,844,630
第5計算期間	531,772,622	51,604,031	733,013,221
第6計算期間	654,011,397	112,385,606	1,274,639,012
第7計算期間	1,332,368,887	190,514,733	2,416,493,166
第8中間計算期間	1,813,494,895	153,364,868	4,076,623,193

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）】

(1) 【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

(単位 : 円)

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,992,379,808	99.02
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		29,707,668	0.98
純資産総額		3,022,087,476	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位 30 銘柄

令和 5年 3月31日現在

国 / 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	544,898,363	2.3010	1,253,857,812	2.4001	1,307,810,561	43.28
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	678,915,827	1.3002	882,794,093	1.3043	885,509,913	29.30
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	135,952,984	4.7999	652,568,634	4.7710	648,631,686	21.46
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	65,383,426	2.3651	154,642,138	2.3007	150,427,648	4.98

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	99.02
合計	99.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（ 3 ） 【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (平成30年 9月10日)	15,351,502	15,351,502	9,816	9,816
第2計算期間末日 (令和 1年 9月10日)	64,536,551	64,536,551	9,725	9,725
第3計算期間末日 (令和 2年 9月10日)	228,684,116	228,684,116	10,265	10,265
第4計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	636,036,250	636,036,250	12,441	12,441
第5計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	1,508,952,369	1,508,952,369	12,546	12,546
令和 4年 3月末日	1,108,435,653		12,411	
4月末日	1,143,684,501		12,164	
5月末日	1,217,390,594		12,188	
6月末日	1,271,130,591		12,005	
7月末日	1,412,909,257		12,321	
8月末日	1,472,123,904		12,385	
9月末日	2,225,114,491		11,919	
10月末日	2,385,529,071		12,426	
11月末日	2,519,337,489		12,463	
12月末日	2,543,303,191		11,975	
令和 5年 1月末日	2,681,505,499		12,291	
2月末日	2,807,980,544		12,478	
3月末日	3,022,087,476		12,620	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円
第5計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（%）

第1計算期間	1.84
第2計算期間	0.92
第3計算期間	5.55
第4計算期間	21.19
第5計算期間	0.84
第6中間計算期間	0.07

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	15,807,601	167,683	15,639,918
第2計算期間	59,246,242	8,521,526	66,364,634
第3計算期間	199,107,241	42,682,941	222,788,934
第4計算期間	358,434,404	69,973,636	511,249,702
第5計算期間	814,434,627	122,952,012	1,202,732,317
第6中間計算期間	1,189,252,525	84,143,176	2,307,841,666

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）】

（１）【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	2,382,306,325	99.02
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		23,622,690	0.98
純資産総額		2,405,929,015	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和 5年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	452,995,984	2.3058	1,044,530,440	2.4001	1,087,235,661	45.19

日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	468,146,506	1.2997	608,462,605	1.3043	610,603,487	25.38
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	118,348,135	4.8087	569,111,070	4.7710	564,638,952	23.47
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	52,083,377	2.3631	123,079,629	2.3007	119,828,225	4.98

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.02
合計	99.02

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

（単位：円）

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (令和 1年 9月10日)	22,238,624	22,238,624	10,270	10,270
第2計算期間末日 (令和 2年 9月10日)	230,757,139	230,757,139	10,857	10,857
第3計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	707,449,557	707,449,557	13,237	13,237
第4計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	1,574,416,271	1,574,416,271	13,400	13,400
令和 4年 3月末日	1,147,420,878		13,233	
4月末日	1,181,971,952		12,954	
5月末日	1,261,489,531		12,982	
6月末日	1,329,768,755		12,781	
7月末日	1,435,558,285		13,135	
8月末日	1,501,291,247		13,209	
9月末日	1,712,178,087		12,692	
10月末日	1,877,212,759		13,271	

11月末日	2,027,096,750		13,313	
12月末日	2,067,395,054		12,770	
令和 5年 1月末日	2,188,522,529		13,129	
2月末日	2,231,274,238		13,334	
3月末日	2,405,929,015		13,481	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円
第3計算期間	0円
第4計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（％）
第1計算期間	2.70
第2計算期間	5.71
第3計算期間	21.92
第4計算期間	1.23
第5中間計算期間	0.01

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	22,173,546	519,382	21,654,164
第2計算期間	268,459,553	77,568,532	212,545,185
第3計算期間	498,496,575	176,601,883	534,439,877
第4計算期間	919,249,973	278,728,272	1,174,961,578
第5中間計算期間	727,916,923	175,032,458	1,727,846,043

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）】

（１）【投資状況】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	925,675,356	99.02
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		9,178,984	0.98
純資産総額		934,854,340	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

令和5年3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	TOPIXマザーファンド	176,009,939	2.3084	406,301,344	2.4001	422,441,454	45.19
日本	親投資信託受益証券	日本債券インデックスマザーファンド	181,983,105	1.2999	236,563,699	1.3043	237,360,563	25.39
日本	親投資信託受益証券	外国株式インデックスマザーファンド	45,953,706	4.8178	221,396,356	4.7710	219,245,131	23.45
日本	親投資信託受益証券	外国債券インデックスマザーファンド	20,266,966	2.3599	47,829,063	2.3007	46,628,208	4.99

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類/業種別投資比率

令和5年3月31日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.02
合計	99.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および令和5年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額		基準価額 (1万口当たりの純資産価額)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末日 (令和 3年 9月10日)	111,124,543	111,124,543	12,098	12,098
第2計算期間末日 (令和 4年 9月12日)	631,651,379	631,651,379	12,247	12,247
令和 4年 3月末日	325,633,949		12,096	
4月末日	379,597,857		11,840	
5月末日	428,122,176		11,867	
6月末日	455,677,640		11,681	
7月末日	554,914,084		12,004	
8月末日	597,853,499		12,072	
9月末日	645,692,244		11,599	
10月末日	711,334,969		12,129	
11月末日	777,964,249		12,167	
12月末日	773,905,931		11,671	
令和 5年 1月末日	820,141,184		11,999	
2月末日	879,392,635		12,187	
3月末日	934,854,340		12,323	

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	0円
第2計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	20.98
第2計算期間	1.23
第3中間計算期間	0.00

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額)を控除した額を当該基準価額(分配落の額)で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	129,136,747	37,284,043	91,852,704
第2計算期間	529,051,503	105,126,812	515,777,395

第3中間計算期間	293,421,374	77,535,237	731,663,532
----------	-------------	------------	-------------

(参考)

TOPIXマザーファンド

投資状況

令和 5年 3月31日現在

(単位:円)

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率(%)
株式	日本	892,400,358,910	98.07
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		17,544,945,309	1.93
純資産総額		909,945,304,219	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

令和 5年 3月31日現在

(単位:円)

資産の種類	建別	国/地域	時価合計	投資比率(%)
株価指数先物取引	買建	日本	17,109,890,000	1.88

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

令和 5年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	17,048,500	1,790.85	30,531,319,100	1,880.00	32,051,180,000	3.52
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	2,196,300	11,451.60	25,151,167,608	11,985.00	26,322,655,500	2.89
日本	株式	キーエンス	電気機器	310,600	62,049.42	19,272,551,582	64,450.00	20,018,170,000	2.20
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	19,150,600	825.85	15,815,653,902	847.90	16,237,793,740	1.78
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	3,990,100	3,994.18	15,937,180,801	3,962.00	15,808,776,200	1.74
日本	株式	第一三共	医薬品	2,712,800	4,693.93	12,733,714,908	4,822.00	13,081,121,600	1.44
日本	株式	武田薬品工業	医薬品	2,755,700	4,295.64	11,837,499,409	4,350.00	11,987,295,000	1.32
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2,234,500	5,138.15	11,481,212,672	5,298.00	11,838,381,000	1.30

日本	株式	日立製作所	電気機器	1,524,800	6,993.38	10,663,515,077	7,252.00	11,057,849,600	1.22
日本	株式	信越化学工業	化学	2,585,200	4,192.28	10,837,886,389	4,275.00	11,051,730,000	1.21
日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	657,100	16,246.55	10,675,610,456	16,040.00	10,539,884,000	1.16
日本	株式	任天堂	その他製品	1,960,200	5,095.34	9,987,891,098	5,131.00	10,057,786,200	1.11
日本	株式	三井物産	卸売業	2,403,600	3,782.93	9,092,651,892	4,116.00	9,893,217,600	1.09
日本	株式	KDDI	情報・通信業	2,406,200	4,094.56	9,852,335,755	4,093.00	9,848,576,600	1.08
日本	株式	三菱商事	卸売業	2,053,900	4,637.07	9,524,083,376	4,751.00	9,758,078,900	1.07
日本	株式	HOYA	精密機器	663,100	13,932.80	9,238,842,274	14,560.00	9,654,736,000	1.06
日本	株式	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1,800,400	4,959.69	8,929,442,147	5,182.00	9,329,672,800	1.03
日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	2,523,800	3,392.00	8,560,753,921	3,510.00	8,858,538,000	0.97
日本	株式	ダイキン工業	機械	374,400	23,054.73	8,631,693,432	23,655.00	8,856,432,000	0.97
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	2,024,200	4,187.30	8,475,937,466	4,301.00	8,706,084,200	0.96
日本	株式	リクルートホールディングス	サービス業	2,362,900	3,699.66	8,741,948,392	3,650.00	8,624,585,000	0.95
日本	株式	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	4,422,400	1,843.22	8,151,496,460	1,878.00	8,305,267,200	0.91
日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	3,079,100	2,527.88	7,783,600,461	2,547.00	7,842,467,700	0.86
日本	株式	ソフトバンク	情報・通信業	5,002,400	1,554.99	7,778,694,167	1,529.00	7,648,669,600	0.84
日本	株式	オリエンタルランド	サービス業	1,689,100	4,377.93	7,394,766,181	4,528.00	7,648,244,800	0.84
日本	株式	村田製作所	電気機器	941,600	7,791.97	7,336,923,125	8,040.00	7,570,464,000	0.83
日本	株式	ファナック	電気機器	1,523,800	4,599.36	7,008,509,180	4,760.00	7,253,288,000	0.80
日本	株式	S M C	機械	101,700	68,525.94	6,969,089,108	69,830.00	7,101,711,000	0.78
日本	株式	セブン&アイ・ホールディングス	小売業	1,132,100	5,851.50	6,624,484,214	5,975.00	6,764,297,500	0.74
日本	株式	日本たばこ産業	食料品	2,012,500	2,738.98	5,512,200,477	2,798.00	5,630,975,000	0.62

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	業種	投資比率(%)
株式	水産・農林業	0.09
	鉱業	0.29
	建設業	1.92
	食料品	3.46
	繊維製品	0.47
	パルプ・紙	0.17
	化学	6.18
	医薬品	5.47
	石油・石炭製品	0.45
	ゴム製品	0.76
	ガラス・土石製品	0.71
	鉄鋼	0.92
	非鉄金属	0.73
	金属製品	0.56

機械	5.30
電気機器	17.75
輸送用機器	7.32
精密機器	2.54
その他製品	2.21
電気・ガス業	1.19
陸運業	2.90
海運業	0.60
空運業	0.48
倉庫・運輸関連業	0.14
情報・通信業	8.49
卸売業	6.05
小売業	4.44
銀行業	5.81
証券、商品先物取引業	0.73
保険業	2.10
その他金融業	1.07
不動産業	1.81
サービス業	4.98
小計	98.07
合計	98.07

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

令和 5年 3月31日現在

資産の種類	取引所名	資産の名称	建別	数量	通貨	簿価金額（円）	評価金額（円）	投資比率（％）
株価指数先物取引	大阪取引所	TOPIX 23年06月限	買建	854	円	16,745,611,100	17,109,890,000	1.88

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該投資資産の評価金額の比率です。

外国株式インデックスマザーファンド

投資状況

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率（％）
株式	アメリカ	1,512,786,825,726	67.07

	イギリス	97,161,346,203	4.31
	カナダ	76,127,542,726	3.38
	フランス	75,599,496,401	3.35
	スイス	65,556,695,505	2.91
	ドイツ	56,587,422,223	2.51
	オーストラリア	46,599,371,500	2.07
	オランダ	40,263,649,859	1.79
	スウェーデン	22,153,758,176	0.98
	デンマーク	20,269,459,758	0.90
	スペイン	17,594,358,642	0.78
	香港	16,658,453,295	0.74
	イタリア	11,966,013,075	0.53
	シンガポール	7,490,639,345	0.33
	フィンランド	6,473,706,850	0.29
	ベルギー	5,606,600,007	0.25
	アイルランド	5,160,740,212	0.23
	ノルウェー	4,406,784,351	0.20
	イスラエル	2,887,929,033	0.13
	ニュージーランド	1,485,498,100	0.07
	ルクセンブルグ	1,440,601,196	0.06
	オーストリア	1,203,047,531	0.05
	ポルトガル	1,138,103,731	0.05
	小計	2,096,618,043,445	92.95
投資証券	アメリカ	39,418,729,772	1.75
	オーストラリア	2,534,840,431	0.11
	シンガポール	980,009,490	0.04
	イギリス	971,698,247	0.04
	フランス	806,508,216	0.04
	香港	565,477,718	0.03
	カナダ	225,489,502	0.01
	ベルギー	201,677,925	0.01
	小計	45,704,431,301	2.03
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		113,307,479,031	5.02
純資産総額		2,255,629,953,777	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

令和 5年 3月31日現在

(単位: 円)

資産の種類	建別	国/地域	時価合計	投資比率(%)
株価指数先物取引	買建	アメリカ	85,751,897,760	3.80

買建	カナダ	4,195,599,150	0.19
買建	ドイツ	15,380,174,777	0.68
買建	オーストラリア	4,226,551,560	0.19
買建	イギリス	5,440,208,886	0.24
買建	スイス	3,626,058,592	0.16

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

令和5年3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価単価(円)	簿価金額(円)	評価単価(円)	評価金額(円)	投資比率(%)
アメリカ	株式	APPLE INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5,150,500	19,455.86	100,207,419,545	21,679.93	111,662,483,585	4.95
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	2,292,902	34,377.21	78,823,585,222	37,929.19	86,967,930,513	3.86
アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス流通・小売り	2,973,164	14,062.25	41,809,393,830	13,620.06	40,494,672,070	1.80
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	796,563	22,156.57	17,649,109,641	36,564.51	29,125,943,665	1.29
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	1,934,910	14,125.92	27,332,400,415	13,471.84	26,066,801,224	1.16
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	1,772,934	13,943.97	24,721,742,513	13,529.25	23,986,484,340	1.06
アメリカ	株式	TESLA INC	自動車・自動車部品	869,393	31,247.15	27,166,054,637	26,075.73	22,670,064,435	1.01
アメリカ	株式	META PLATFORMS INC-CLASS A	メディア・娯楽	728,386	23,685.81	17,252,416,485	27,752.87	20,214,805,755	0.90
アメリカ	株式	EXXON MOBIL CORP	エネルギー	1,333,062	12,070.43	16,090,642,706	14,620.19	19,489,632,652	0.86
アメリカ	株式	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケア機器・サービス	302,441	65,803.90	19,901,799,402	62,767.11	18,983,348,060	0.84
アメリカ	株式	JOHNSON & JOHNSON	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	846,325	23,343.66	19,756,326,047	20,487.50	17,339,090,123	0.77
アメリカ	株式	BERKSHIRE HATHAWAY INC-CLASS B	金融サービス	421,197	41,015.29	17,275,519,117	40,737.33	17,158,442,195	0.76
アメリカ	株式	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	949,611	16,118.43	15,306,241,445	17,191.98	16,325,700,442	0.72
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	金融サービス	527,058	26,653.36	14,047,870,986	29,691.73	15,649,264,252	0.69
アメリカ	株式	PROCTER & GAMBLE CO/THE	家庭用品・パーソナル用品	767,040	20,015.02	15,352,323,963	19,688.99	15,102,249,409	0.67
スイス	株式	NESTLE SA-REG	食品・飲料・タバコ	890,070	17,365.03	15,456,096,659	16,185.75	14,406,457,979	0.64
アメリカ	株式	MASTERCARD INC - A	金融サービス	277,866	43,972.84	12,218,558,587	47,971.98	13,329,784,362	0.59

アメリカ	株式	CHEVRON CORP	エネルギー	594,539	21,815.00	12,969,868,958	21,683.93	12,891,946,042	0.57
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	一般消費財・サービス流通・小売り	330,289	38,400.68	12,683,324,079	38,104.12	12,585,371,955	0.56
アメリカ	株式	ABBVIE INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	572,844	20,281.10	11,617,909,008	21,087.05	12,079,594,424	0.54
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	261,567	40,116.32	10,493,105,705	45,492.33	11,899,293,772	0.53
オランダ	株式	ASML HOLDING NV	半導体・半導体製造装置	130,614	75,166.14	9,817,751,367	90,885.56	11,870,927,056	0.53
アメリカ	株式	MERCK & CO. INC.	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	821,032	12,320.74	10,115,726,190	14,143.49	11,612,264,122	0.51
アメリカ	株式	BROADCOM INC	半導体・半導体製造装置	134,999	74,482.31	10,055,038,451	84,624.63	11,424,241,438	0.51
デンマーク	株式	NOVO NORDISK A/S-B	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	536,405	15,258.01	8,184,474,201	21,116.97	11,327,251,511	0.50
アメリカ	株式	COCA-COLA CO/THE	食品・飲料・タバコ	1,329,484	8,460.16	11,247,659,485	8,258.83	10,979,983,008	0.49
フランス	株式	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	耐久消費財・アパレル	89,703	87,890.63	7,884,053,286	120,510.43	10,810,147,999	0.48
アメリカ	株式	PEPSICO INC	食品・飲料・タバコ	445,775	22,888.92	10,203,311,267	24,146.22	10,763,785,634	0.48
アメリカ	株式	PFIZER INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1,817,439	6,558.82	11,920,258,272	5,391.94	9,799,524,586	0.43
アメリカ	株式	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	126,959	70,358.68	8,932,667,753	75,173.38	9,543,937,672	0.42

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	業種	投資比率（%）
株式	エネルギー	5.03
	素材	4.17
	資本財	6.45
	商業・専門サービス	1.49
	運輸	1.78
	自動車・自動車部品	1.86
	耐久消費財・アパレル	1.70
	消費者サービス	2.01
	メディア・娯楽	5.11

一般消費財・サービス流通・小売り	3.89
生活必需品流通・小売り	1.76
食品・飲料・タバコ	4.09
家庭用品・パーソナル用品	1.76
ヘルスケア機器・サービス	4.45
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	8.50
銀行	5.21
金融サービス	6.29
保険	3.02
ソフトウェア・サービス	8.29
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	6.37
電気通信サービス	1.38
公益事業	2.96
半導体・半導体製造装置	5.07
不動産管理・開発	0.31
小計	92.95
投資証券	2.03
合計	94.98

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

令和 5年 3月31日現在

資産の種類	地域	取引所名	資産の名称	建別	数量	通貨	簿価金額	簿価金額（円）	評価金額	評価金額（円）	投資比率（％）
株価指数先物取引	アメリカ	シカゴ商業取引所	SP EMINI2306	買建	3,148	アメリカドル	618,151,334.04	82,541,747,634	642,192,000	85,751,897,760	3.80
	カナダ	モントリオール取引所	SP/TSE602306	買建	177	カナダドル	41,966,910.75	4,144,232,437	42,487,080	4,195,599,150	0.19
	ドイツ	ユーレックス・ドイツ金融先物取引所	EURO ST 2306	買建	2,494	ユーロ	101,364,603.92	14,770,850,083	105,546,080	15,380,174,777	0.68
	オーストラリア	シドニー先物取引所	SPI 200 2306	買建	264	オーストラリアドル	46,827,651	4,199,972,018	47,124,000	4,226,551,560	0.19
	イギリス	インターコンチネンタル取引所	FTSE100 2306	買建	431	イギリスポンド	32,487,123.75	5,378,568,208	32,859,440	5,440,208,886	0.24
	スイス	ユーレックス・チューリッヒ取引所	SWISS IX2306	買建	227	スイスフラン	23,830,319.95	3,483,039,563	24,808,830	3,626,058,592	0.16

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該投資資産の評価金額の比率です。

日本債券インデックスマザーファンド

投資状況

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国/地域	時価合計	投資比率(%)
国債証券	日本	587,763,707,970	83.06
地方債証券	日本	39,130,539,947	5.53
特殊債券	日本	33,799,692,738	4.78
社債券	日本	42,732,760,000	6.04
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		4,223,631,642	0.59
純資産総額		707,650,332,297	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他の資産の投資状況

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	建別	国/地域	時価合計	投資比率(%)
債券先物取引	買建	日本	592,480,000	0.08

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

令和 5年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
日本	国債証券	第363回利付国債(10年)	10,160,000,000	98.86	10,044,176,000	98.19	9,977,018,400	0.100000	2031/6/20	1.41
日本	国債証券	第142回利付国債(20年)	8,560,000,000	112.68	9,646,071,700	113.14	9,685,212,000	1.800000	2032/12/20	1.37
日本	国債証券	第137回利付国債(20年)	8,382,000,000	112.77	9,452,471,980	112.15	9,400,413,000	1.700000	2032/6/20	1.33
日本	国債証券	第364回利付国債(10年)	7,890,000,000	98.44	7,767,610,500	98.10	7,740,484,500	0.100000	2031/9/20	1.09
日本	国債証券	第356回利付国債(10年)	7,380,000,000	99.52	7,344,841,900	99.48	7,342,214,400	0.100000	2029/9/20	1.04
日本	国債証券	第359回利付国債(10年)	7,250,000,000	99.17	7,190,327,800	99.07	7,183,082,500	0.100000	2030/6/20	1.02

日本	国債証券	第149回利付国債（5年）	7,130,000,000	100.03	7,132,817,800	100.10	7,137,415,200	0.005000	2026/9/20	1.01
日本	国債証券	第360回利付国債（10年）	6,930,000,000	98.76	6,844,760,200	98.90	6,853,770,000	0.100000	2030/9/20	0.97
日本	国債証券	第350回利付国債（10年）	6,530,000,000	100.17	6,541,101,000	100.02	6,531,567,200	0.100000	2028/3/20	0.92
日本	国債証券	第144回利付国債（5年）	6,380,000,000	100.43	6,407,434,000	100.39	6,405,456,200	0.100000	2025/6/20	0.91
日本	国債証券	第345回利付国債（10年）	6,340,000,000	100.46	6,369,164,000	100.37	6,363,521,400	0.100000	2026/12/20	0.90
日本	国債証券	第358回利付国債（10年）	6,280,000,000	99.28	6,235,114,000	99.24	6,232,586,000	0.100000	2030/3/20	0.88
日本	国債証券	第365回利付国債（10年）	6,300,000,000	96.25	6,063,876,000	98.05	6,177,213,000	0.100000	2031/12/20	0.87
日本	国債証券	第346回利付国債（10年）	6,130,000,000	100.46	6,158,198,000	100.31	6,149,370,800	0.100000	2027/3/20	0.87
日本	国債証券	第349回利付国債（10年）	6,090,000,000	100.23	6,104,398,500	100.09	6,095,663,700	0.100000	2027/12/20	0.86
日本	国債証券	第153回利付国債（5年）	6,040,000,000	99.92	6,035,634,100	99.85	6,031,060,800	0.005000	2027/6/20	0.85
日本	国債証券	第361回利付国債（10年）	6,050,000,000	98.97	5,988,151,400	98.64	5,967,720,000	0.100000	2030/12/20	0.84
日本	国債証券	第145回利付国債（5年）	5,810,000,000	100.42	5,834,775,000	100.43	5,835,099,200	0.100000	2025/9/20	0.82
日本	国債証券	第154回利付国債（5年）	5,730,000,000	99.98	5,728,854,000	100.17	5,740,199,400	0.100000	2027/9/20	0.81
日本	国債証券	第347回利付国債（10年）	5,700,000,000	100.40	5,723,199,000	100.25	5,714,364,000	0.100000	2027/6/20	0.81
日本	国債証券	第353回利付国債（10年）	5,500,000,000	99.91	5,495,050,000	99.82	5,490,595,000	0.100000	2028/12/20	0.78
日本	国債証券	第143回利付国債（5年）	5,380,000,000	100.42	5,402,596,000	100.37	5,400,067,400	0.100000	2025/3/20	0.76
日本	国債証券	第354回利付国債（10年）	5,380,000,000	99.79	5,368,824,500	99.73	5,365,689,200	0.100000	2029/3/20	0.76
日本	国債証券	第141回利付国債（5年）	5,240,000,000	100.34	5,257,836,800	100.29	5,255,353,200	0.100000	2024/9/20	0.74
日本	国債証券	第150回利付国債（5年）	5,230,000,000	99.98	5,229,416,400	100.01	5,230,941,400	0.005000	2026/12/20	0.74
日本	国債証券	第357回利付国債（10年）	5,250,000,000	99.12	5,204,123,200	99.37	5,216,925,000	0.100000	2029/12/20	0.74
日本	国債証券	第362回利付国債（10年）	5,240,000,000	96.90	5,077,794,000	98.40	5,156,474,400	0.100000	2031/3/20	0.73
日本	国債証券	第134回利付国債（20年）	4,545,000,000	114.82	5,218,794,050	112.79	5,126,532,750	1.800000	2032/3/20	0.72
日本	国債証券	第348回利付国債（10年）	4,970,000,000	100.34	4,986,942,100	100.17	4,978,846,600	0.100000	2027/9/20	0.70
日本	国債証券	第343回利付国債（10年）	4,870,000,000	100.47	4,892,986,400	100.46	4,892,694,200	0.100000	2026/6/20	0.69

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率（%）
国債証券	83.06
地方債証券	5.53
特殊債券	4.78
社債券	6.04
合計	99.40

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

令和 5年 3月31日現在

資産の種類	取引所名	資産の名称	建別	数量	通貨	簿価金額（円）	評価金額（円）	投資比率（％）
債券先物取引	大阪取引所	長期国債先物 2 3 年 0 6 月限	買建	4	円	581,884,400	592,480,000	0.08

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該投資資産の評価金額の比率です。

外国債券インデックスマザーファンド

投資状況

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率（％）
国債証券	アメリカ	208,292,536,621	48.65
	フランス	36,912,617,363	8.62
	イタリア	32,291,274,879	7.54
	ドイツ	27,154,996,902	6.34
	スペイン	20,618,987,516	4.82
	イギリス	20,556,221,753	4.80
	中国	19,738,516,446	4.61
	カナダ	8,687,771,792	2.03
	ベルギー	7,876,427,133	1.84
	オーストラリア	6,593,357,190	1.54
	オランダ	6,540,862,369	1.53
	オーストリア	4,977,125,604	1.16
	メキシコ	3,686,743,670	0.86
	アイルランド	2,711,449,797	0.63
	フィンランド	2,338,739,133	0.55
	マレーシア	2,330,007,349	0.54
	ポーランド	1,830,280,650	0.43
	シンガポール	1,795,969,409	0.42
	イスラエル	1,347,658,378	0.31
	デンマーク	1,296,851,346	0.30
ニュージーランド	846,574,628	0.20	
スウェーデン	827,541,428	0.19	
ノルウェー	760,974,481	0.18	

	小計	420,013,485,837	98.10
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		8,154,036,740	1.90
純資産総額		428,167,522,577	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

令和 5年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	利率 (%)	償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	0.875 T-NOTE 301115	19,430,000	11,188.73	2,173,972,056	10,994.31	2,136,195,947	0.875000	2030/11/15	0.50
アメリカ	国債証券	2.5 T-NOTE 240531	16,000,000	13,068.09	2,090,895,884	13,047.60	2,087,616,374	2.500000	2024/5/31	0.49
アメリカ	国債証券	1.875 T-NOTE 320215	17,060,000	11,700.20	1,996,055,317	11,658.83	1,988,997,784	1.875000	2032/2/15	0.46
アメリカ	国債証券	2.75 T-NOTE 320815	15,810,000	12,449.98	1,968,342,930	12,496.53	1,975,701,440	2.750000	2032/8/15	0.46
アメリカ	国債証券	4.125 T-NOTE 321115	13,900,000	13,902.25	1,932,413,690	13,955.97	1,939,880,021	4.125000	2032/11/15	0.45
アメリカ	国債証券	1.375 T-NOTE 311115	16,700,000	11,499.04	1,920,339,796	11,209.99	1,872,069,999	1.375000	2031/11/15	0.44
アメリカ	国債証券	1.25 T-NOTE 310815	16,720,000	11,347.14	1,897,242,549	11,140.36	1,862,669,233	1.250000	2031/8/15	0.44
アメリカ	国債証券	1.625 T-NOTE 310515	15,460,000	11,787.04	1,822,276,594	11,547.99	1,785,320,461	1.625000	2031/5/15	0.42
アメリカ	国債証券	2.875 T-NOTE 320515	13,830,000	13,213.06	1,827,367,464	12,638.92	1,747,963,671	2.875000	2032/5/15	0.41
アメリカ	国債証券	1.125 T-NOTE 310215	14,760,000	11,129.45	1,642,707,425	11,188.09	1,651,362,477	1.125000	2031/2/15	0.39
アメリカ	国債証券	0.625 T-NOTE 300815	15,160,000	10,992.21	1,666,419,156	10,829.75	1,641,790,477	0.625000	2030/8/15	0.38
アメリカ	国債証券	0.75 T-NOTE 260331	13,100,000	12,315.47	1,613,326,819	12,184.35	1,596,150,074	0.750000	2026/3/31	0.37
アメリカ	国債証券	2.5 T-NOTE 240515	11,950,000	13,225.06	1,580,395,659	13,053.60	1,559,905,276	2.500000	2024/5/15	0.36
アメリカ	国債証券	2 T-NOTE 240531	11,730,000	13,179.82	1,545,993,857	12,974.31	1,521,887,407	2.000000	2024/5/31	0.36
アメリカ	国債証券	0.375 T-NOTE 240915	12,000,000	12,601.71	1,512,206,386	12,602.41	1,512,289,838	0.375000	2024/9/15	0.35
フランス	国債証券	2.5 O.A.T 300525	10,290,000	15,240.05	1,568,201,260	14,378.83	1,479,581,974	2.500000	2030/5/25	0.35
アメリカ	国債証券	2 T-NOTE 250815	11,490,000	12,810.22	1,471,894,933	12,742.72	1,464,139,244	2.000000	2025/8/15	0.34
アメリカ	国債証券	1.25 T-NOTE 280930	12,200,000	11,935.81	1,456,169,270	11,732.64	1,431,382,652	1.250000	2028/9/30	0.33
アメリカ	国債証券	1.25 T-NOTE 280531	11,250,000	11,606.47	1,305,727,940	11,826.01	1,330,426,283	1.250000	2028/5/31	0.31
アメリカ	国債証券	2.25 T-NOTE 251115	10,290,000	12,920.87	1,329,557,591	12,781.84	1,315,251,979	2.250000	2025/11/15	0.31
アメリカ	国債証券	2.625 T-NOTE 290215	10,420,000	12,541.38	1,306,811,882	12,606.32	1,313,579,309	2.625000	2029/2/15	0.31
フランス	国債証券	0.5 O.A.T 290525	10,070,000	13,386.62	1,348,033,309	12,769.13	1,285,852,155	0.500000	2029/5/25	0.30
アメリカ	国債証券	2.375 T-BOND 510515	12,720,000	10,760.57	1,368,745,192	10,105.24	1,285,387,522	2.375000	2051/5/15	0.30

アメリカ	国債証券	2.75 T-NOTE 280215	9,990,000	13,101.57	1,308,846,905	12,775.84	1,276,307,196	2.750000	2028/2/15	0.30
アメリカ	国債証券	1.625 T-NOTE 260515	10,170,000	12,524.13	1,273,704,843	12,473.05	1,268,510,011	1.625000	2026/5/15	0.30
アメリカ	国債証券	0.25 T-NOTE 251031	10,300,000	12,138.78	1,250,295,332	12,148.10	1,251,254,332	0.250000	2025/10/31	0.29
アメリカ	国債証券	2.75 T-NOTE 270430	9,700,000	12,964.55	1,257,561,662	12,830.87	1,244,595,055	2.750000	2027/4/30	0.29
アメリカ	国債証券	0.625 T-NOTE 300515	11,390,000	11,028.08	1,256,099,083	10,881.13	1,239,360,725	0.625000	2030/5/15	0.29
アメリカ	国債証券	0.375 T-NOTE 251130	10,150,000	12,239.38	1,242,297,135	12,153.05	1,233,535,145	0.375000	2025/11/30	0.29
アメリカ	国債証券	1.625 T-NOTE 260215	9,760,000	12,620.71	1,231,781,597	12,530.69	1,222,995,846	1.625000	2026/2/15	0.29

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

令和 5年 3月31日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	98.10
合計	98.10

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

マネー・マーケット・マザーファンド

投資状況

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産の種類	国 / 地域	時価合計	投資比率（％）
コール・ローン、その他資産 （負債控除後）		2,858,505,344	100.00
純資産総額		2,858,505,344	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

該当事項はありません。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

参考情報

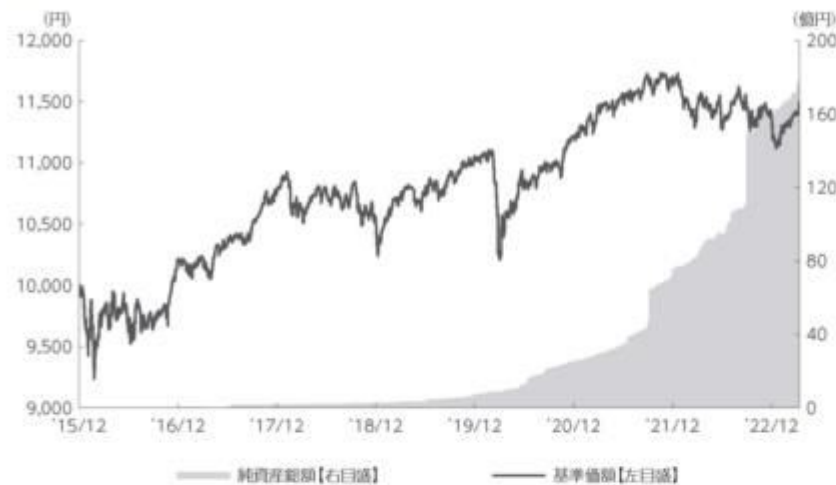


運用実績

2023年3月31日現在

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2015年12月18日(設定日)～2023年3月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	11,502円
純資産総額	180.1億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
2017年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万口当たり、税引前

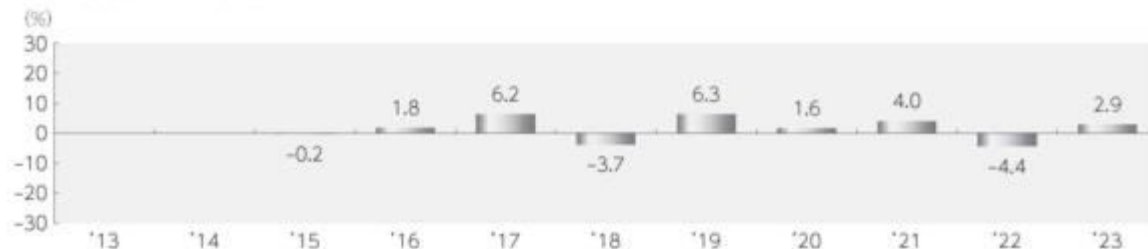
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	13.0%	1 円	88.7%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	0.5%
国内債券	64.1%	2 アメリカドル	7.0%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	0.4%
外国株式	5.9%	3 ユーロ	2.4%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/ソフトウェア	アメリカ	0.3%
外国債券	5.0%	4 イギリスポンド	0.5%	キーエンス	株式	電気機器	日本	0.3%
		5 カナダドル	0.3%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.2%
		6 中国元	0.2%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.9%
		7 オーストラリアドル	0.2%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.9%
コールローン他 (負債控除後)	12.0%	8 スイスフラン	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.9%
合計	100.0%	9 デンマーククローネ	0.1%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.7%
		10 スウェーデンクローネ	0.1%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.7%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	0.6%
債券先物取引(買建)	0.1%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- [国・地域]は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

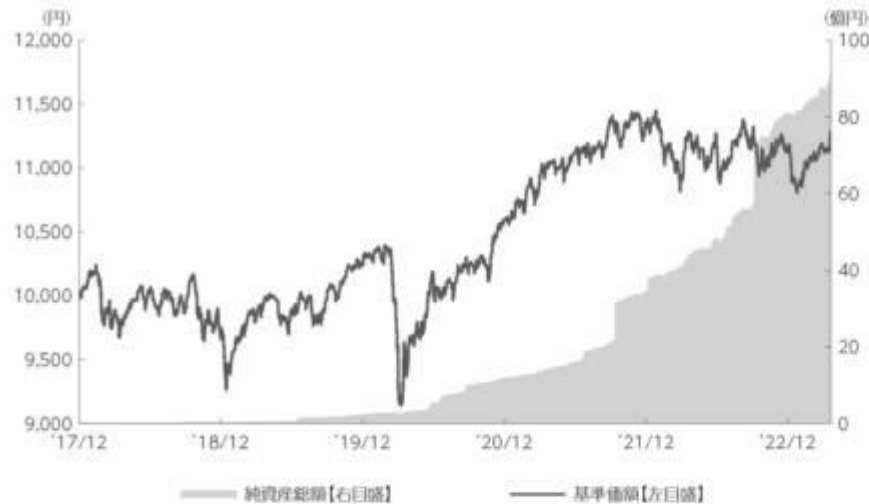


- 収益率は基準価額で計算
- 2015年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2017年12月11日(設定日)～2023年3月31日



■基準価額・純資産

基準価額	11,282円
純資産総額	91.0億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万円当たり、税引前

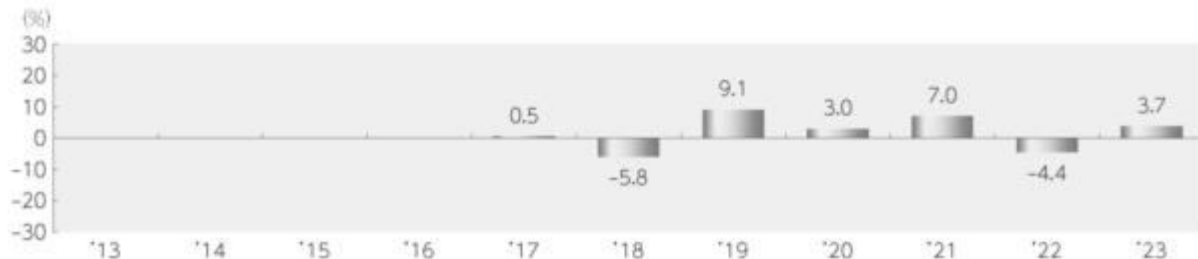
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	20.0%	1 円	84.6%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	0.7%
国内債券	62.9%	2 アメリカドル	10.0%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	0.6%
外国株式	9.8%	3 ユーロ	2.8%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/機器	アメリカ	0.5%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	0.7%	キーエンス	株式	電気機器	日本	0.4%
		5 カナダドル	0.5%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.4%
		6 オーストラリアドル	0.3%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.9%
		7 スイスフラン	0.3%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.9%
		8 中国元	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.8%
コールローン他 (負債控除後)	2.4%	9 スウェーデンクローネ	0.1%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.7%
合計	100.0%	10 デンマーククローネ	0.1%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.7%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	0.9%
債券先物取引(買建)	0.1%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

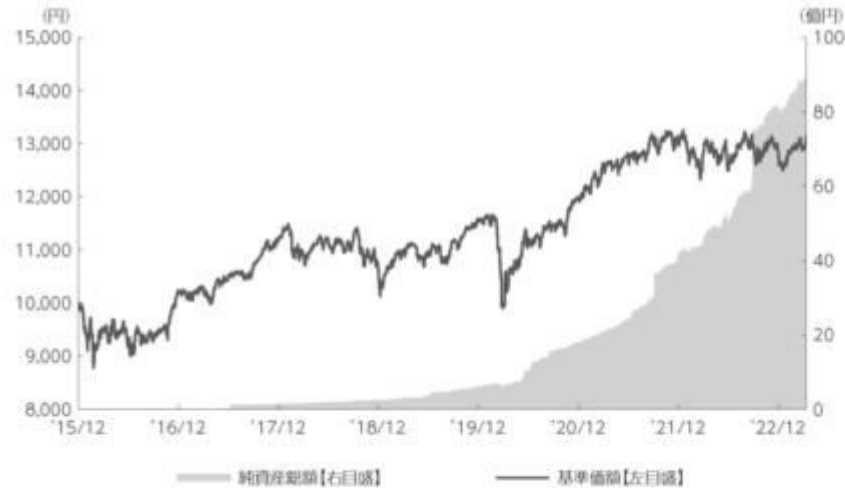


- 収益率は基準価額で計算
- 2017年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2015年12月18日(設定日)～2023年3月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	13,146円
純資産総額	91.3億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
2017年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万口当たり、税引前

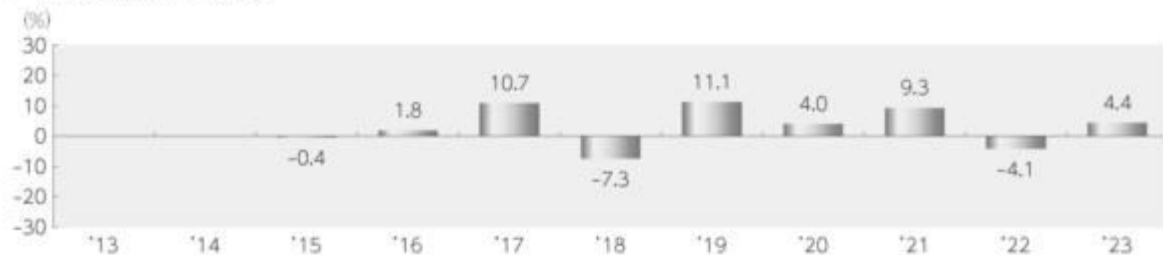
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	28.8%	1 円	80.5%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.0%
国内債券	49.9%	2 アメリカドル	13.0%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	0.9%
外国株式	13.7%	3 ユーロ	3.2%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ソフトウェア/ハードウェア	アメリカ	0.7%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	0.9%	キーエンス	株式	電気機器	日本	0.6%
		5 カナダドル	0.6%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.6%
		6 スイスフラン	0.4%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.7%
		7 オーストラリアドル	0.4%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.7%
コールローン他 (負債控除後)	2.7%	8 中国元	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.7%
合計	100.0%	9 スウェーデンクローネ	0.2%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.5%
		10 デンマーククローネ	0.2%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.5%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	1.3%
債券先物取引(買建)	0.0%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移



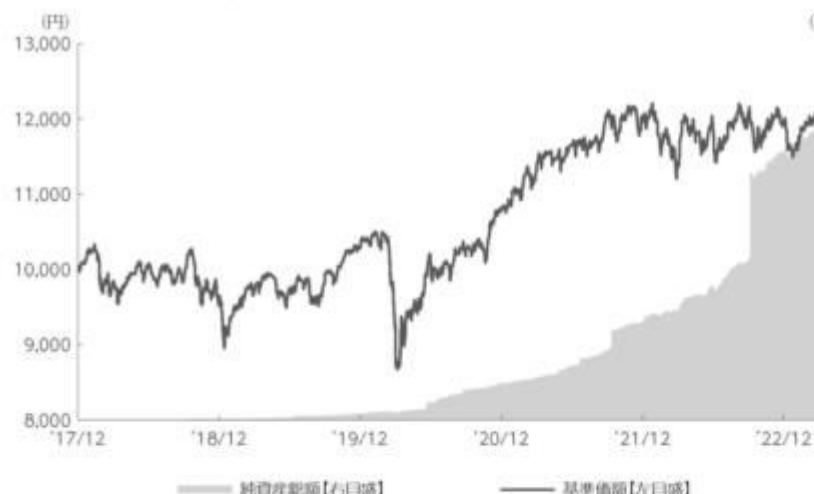
- 収益率は基準価額で計算
- 2015年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2017年12月11日(設定日)～2023年3月31日



- ・基準価額は10,000を起点として表示
- ・基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	12,158円
純資産総額	57.4億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
設定来累計	0円

・分配金は1万口当たり、税引前

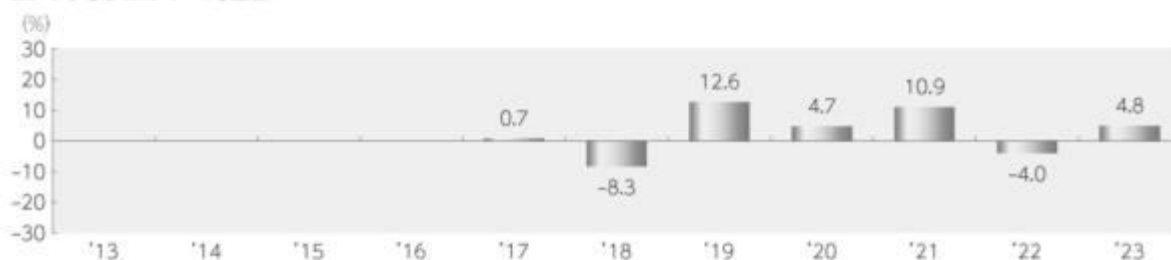
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	34.7%	1 円	77.5%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.2%
国内債券	41.0%	2 アメリカドル	15.1%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.0%
外国株式	16.6%	3 ユーロ	3.5%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/ソフトウェア	アメリカ	0.9%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	1.0%	キーエンス	株式	電気機器	日本	0.8%
		5 カナダドル	0.7%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.7%
		6 スイスフラン	0.5%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.6%
		7 オーストラリアドル	0.5%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.6%
コールローン他 (負債控除後)	2.8%	8 中国元	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.5%
合計	100.0%	9 スウェーデンクローネ	0.2%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.5%
		10 デンマーククローネ	0.2%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	1.6%
債券先物取引(買建)	0.0%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard (GICS)は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- ・[国・地域]は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

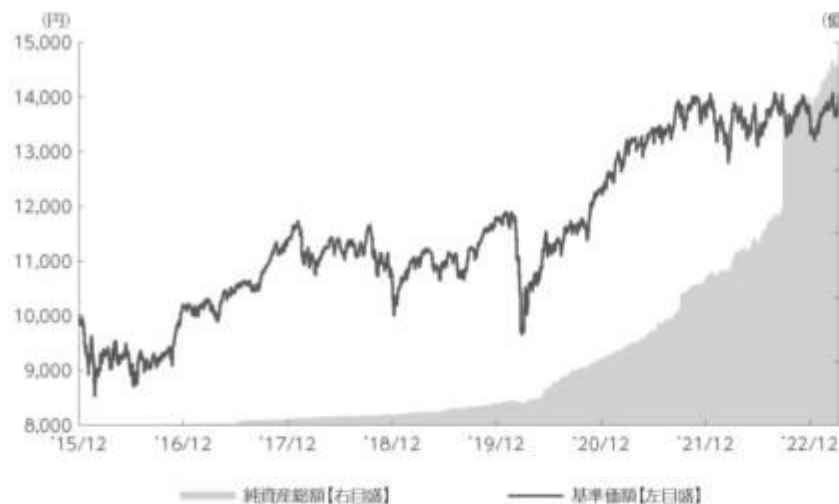


- ・収益率は基準価額で計算
- ・2017年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2015年12月18日(設定日)～2023年3月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	14,032円
純資産総額	58.6億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
2017年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万円当たり、税引前

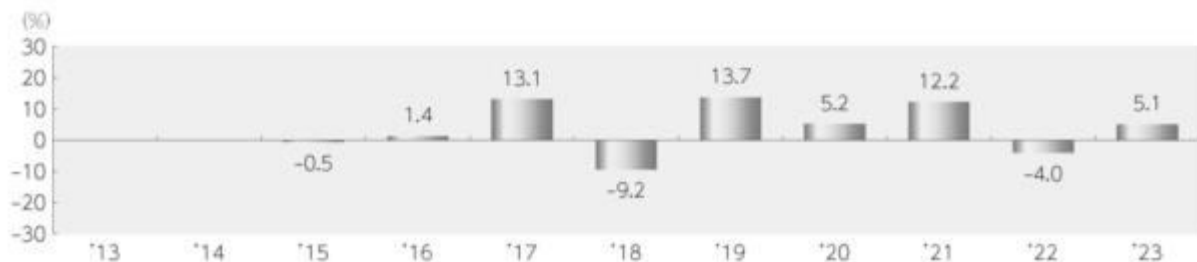
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	38.6%	1 円	74.5%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.4%
国内債券	34.0%	2 アメリカドル	17.3%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.1%
外国株式	19.4%	3 ユーロ	3.8%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ウェアラブル機器	アメリカ	1.0%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	1.2%	キーエンス	株式	電気機器	日本	0.9%
		5 カナダドル	0.8%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.8%
		6 スイスフラン	0.6%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.5%
		7 オーストラリアドル	0.6%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.5%
		8 中国元	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.5%
コールローン他 (負債控除後)	3.1%	9 スウェーデンクローネ	0.2%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%
合計	100.0%	10 デンマーククローネ	0.2%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	1.8%
債券先物取引(買建)	0.0%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

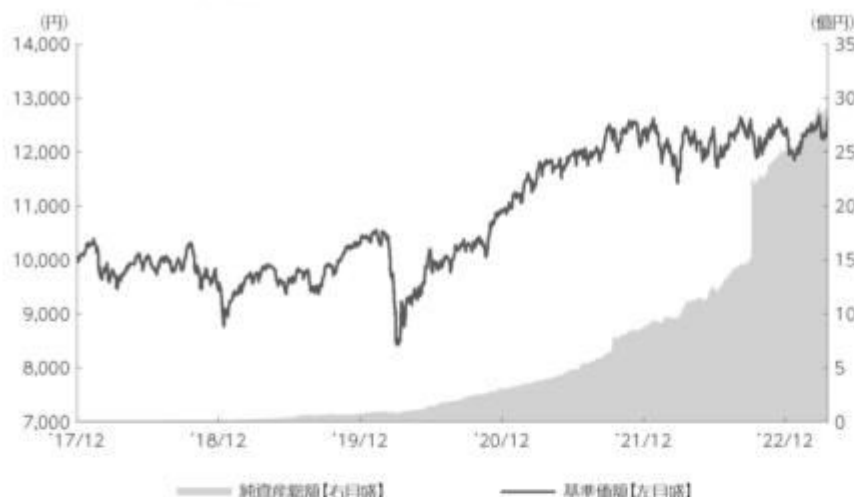


- 収益率は基準価額で計算
- 2015年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2017年12月11日(設定日)～2023年3月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	12,620円
純資産総額	30.2億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
2018年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万円当たり、税引前

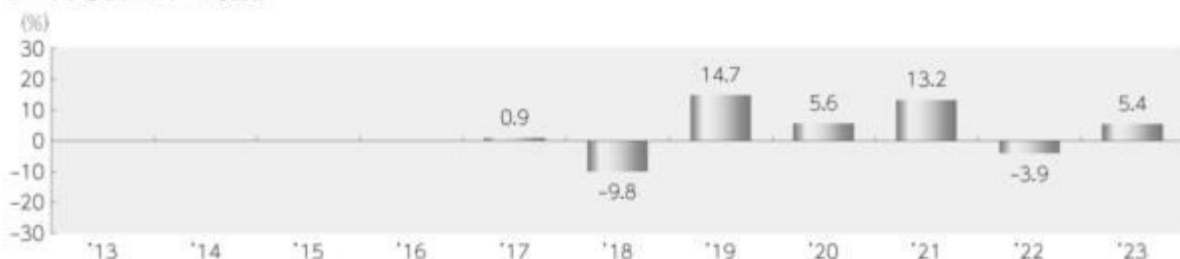
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	42.4%	1 円	73.5%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.5%
国内債券	29.1%	2 アメリカドル	18.1%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.3%
外国株式	20.4%	3 ユーロ	3.9%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/ソフトウェア	アメリカ	1.1%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	1.2%	キーエンス	株式	電気機器	日本	1.0%
		5 カナダドル	0.9%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.8%
		6 スイスフラン	0.7%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%
		7 オーストラリアドル	0.6%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.4%
		8 中国元	0.2%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.4%
コールローン他 (負債控除後)	3.2%	9 スウェーデンクローネ	0.2%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%
合計	100.0%	10 デンマーククローネ	0.2%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引(買建)	1.9%
債券先物取引(買建)	0.0%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

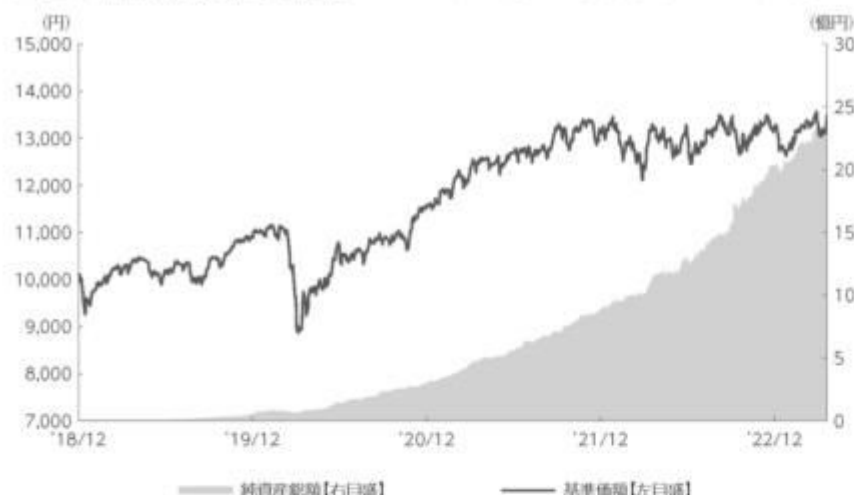


- 収益率は基準価額で計算
- 2017年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2018年12月11日(設定日)～2023年3月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	13,481円
純資産総額	24.0億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
2020年9月	0円
2019年9月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万口当たり、税引前

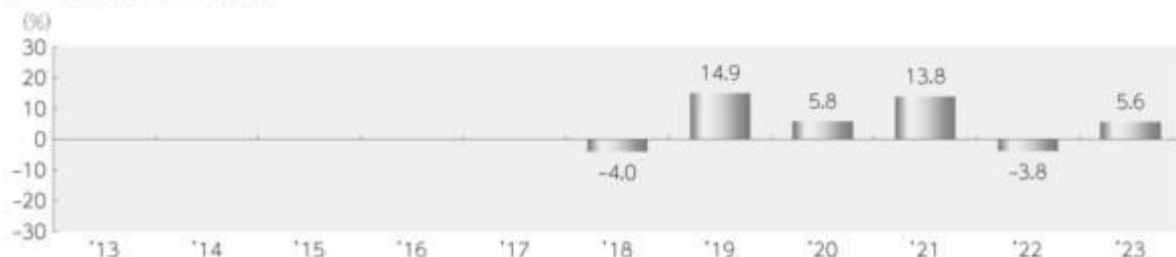
■主要な資産の状況

資産別構成	比率	組入上位通貨	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
国内株式	44.3%	1 円	71.5%	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.6%
国内債券	25.2%	2 アメリカドル	19.5%	ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.3%
外国株式	22.3%	3 ユーロ	4.1%	APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/ソフトウェア	アメリカ	1.2%
外国債券	4.9%	4 イギリスポンド	1.3%	キーエンス	株式	電気機器	日本	1.0%
		5 カナダドル	0.9%	MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア・サービス	アメリカ	0.9%
		6 スイスフラン	0.7%	第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%
		7 オーストラリアドル	0.6%	第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.3%
		8 スウェーデンクローネ	0.3%	第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.3%
		9 デンマーククローネ	0.2%	第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%
		10 中国元	0.2%	第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%
コールローン他 (負債控除後)	3.3%							
合計	100.0%							

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引 (買建)	2.1%
債券先物取引 (買建)	0.0%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

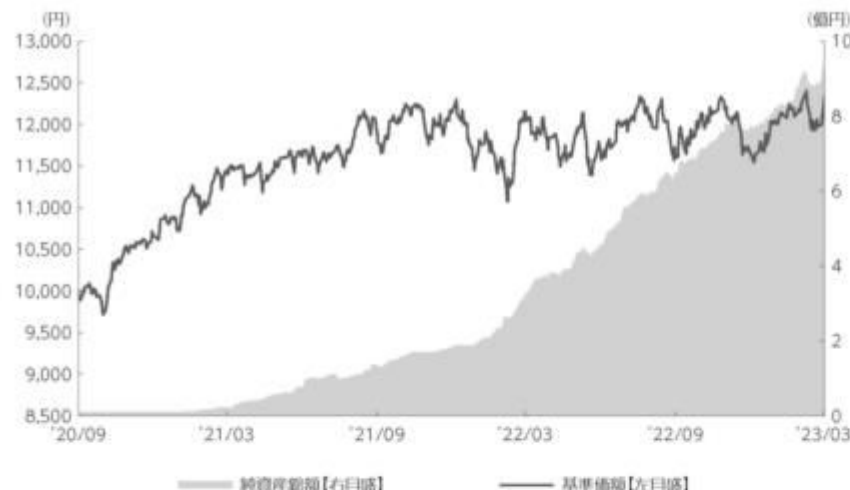


- 収益率は基準価額で計算
- 2018年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)

■基準価額・純資産の推移 2020年9月30日(設定日)～2023年3月31日



- ・基準価額は10,000を起点として表示
- ・基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	12,323円
純資産総額	9.3億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2022年9月	0円
2021年9月	0円
設定来累計	0円

・分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

資産別構成	比率
国内株式	44.3%
国内債券	25.2%
外国株式	22.3%
外国債券	4.9%
コールローン他 (負債控除後)	3.3%
合計	100.0%

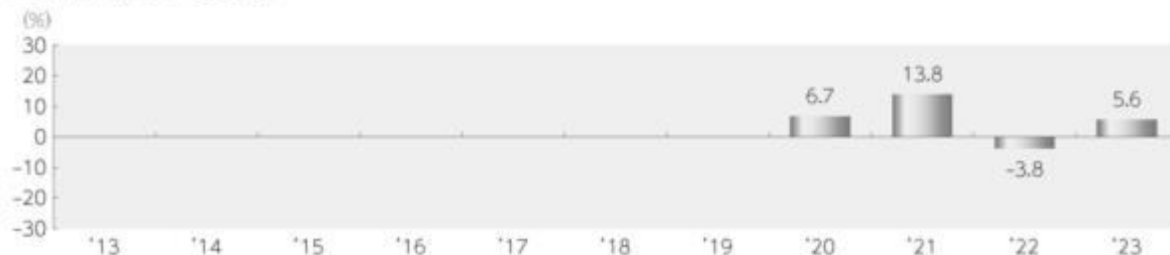
組入上位通貨	比率
1 円	71.5%
2 アメリカドル	19.5%
3 ユーロ	4.1%
4 イギリスポンド	1.3%
5 カナダドル	0.9%
6 スイスフラン	0.7%
7 オーストラリアドル	0.6%
8 スウェーデンクローネ	0.3%
9 デンマーククローネ	0.2%
10 中国元	0.2%

組入上位銘柄	種類	業種/種別	国・地域	比率
トヨタ自動車	株式	輸送用機器	日本	1.6%
ソニーグループ	株式	電気機器	日本	1.3%
APPLE INC	株式	テクノロジー/ハードウェア/機器	アメリカ	1.2%
キーエンス	株式	電気機器	日本	1.0%
MICROSOFT CORP	株式	ソフトウェア/サービス	アメリカ	0.9%
第363回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.4%
第142回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.3%
第137回利付国債(20年)	債券	国債	日本	0.3%
第364回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%
第356回利付国債(10年)	債券	国債	日本	0.3%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引 (買建)	2.1%
債券先物取引 (買建)	0.0%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- ・外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
- ・「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額で計算
- ・2020年は設定日から年末までの、2023年は年初から3月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

第3【ファンドの経理状況】

1 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

【中間財務諸表】

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第7期 [令和4年9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和5年3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	7,674,208
コール・ローン	131,449,684	208,027,629
親投資信託受益証券	10,925,047,866	16,936,287,729
未収入金	-	25,078,611
流動資産合計	11,056,497,550	17,177,068,177
資産合計		
	11,056,497,550	17,177,068,177
負債の部		
流動負債		
未払解約金	3,161,954	35,718,061
未払受託者報酬	2,164,913	3,465,068
未払委託者報酬	16,236,780	25,987,992
未払利息	135	612
その他未払費用	194,778	311,794
流動負債合計	21,758,560	65,483,527
負債合計		
	21,758,560	65,483,527
純資産の部		
元本等		
元本	9,580,193,740	15,028,967,286
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,454,545,250	2,082,617,364
（分配準備積立金）	246,128,852	235,960,201
元本等合計	11,034,738,990	17,111,584,650
純資産合計		
	11,034,738,990	17,111,584,650
負債純資産合計		
	11,056,497,550	17,177,068,177

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第7期中間計算期間 自 令和3年9月11日 至 令和4年3月10日	第8期中間計算期間 自 令和4年9月13日 至 令和5年3月12日
営業収益		

	第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
受取利息	110	806
有価証券売買等損益	208,684,495	121,986,217
営業収益合計	208,684,385	121,985,411
営業費用		
支払利息	7,652	43,216
受託者報酬	1,547,029	3,465,068
委託者報酬	11,602,643	25,987,992
その他費用	139,172	311,794
営業費用合計	13,296,496	29,808,070
営業利益又は営業損失()	221,980,881	151,793,481
経常利益又は経常損失()	221,980,881	151,793,481
中間純利益又は中間純損失()	221,980,881	151,793,481
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	3,218,827	9,022,807
期首剰余金又は期首欠損金()	630,424,517	1,454,545,250
剰余金増加額又は欠損金減少額	609,206,137	859,418,048
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	609,206,137	859,418,048
剰余金減少額又は欠損金増加額	43,695,753	88,575,260
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	43,695,753	88,575,260
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	977,172,847	2,082,617,364

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	3,694,832,024円	9,580,193,740円
期中追加設定元本額	6,582,833,915円	6,041,638,620円
期中一部解約元本額	697,472,199円	592,865,074円
2. 受益権の総数	9,580,193,740口	15,028,967,286口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.1518円	1.1386円
(1万口当たり純資産額)	(11,518円)	(11,386円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）】

（1）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	6,617
コール・ローン	40,832,645	103,471,631
親投資信託受益証券	5,639,140,799	8,662,419,584
未収入金	26,056,385	-
流動資産合計	5,706,029,829	8,765,897,832
資産合計		
	5,706,029,829	8,765,897,832
負債の部		
流動負債		
未払解約金	950,812	1,974,587
未払受託者報酬	1,094,798	1,736,566
未払委託者報酬	8,210,951	13,024,213
未払利息	41	304
その他未払費用	98,472	156,232
流動負債合計	10,355,074	16,891,902
負債合計		
	10,355,074	16,891,902
純資産の部		
元本等		
元本	5,051,240,160	7,837,664,956
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	644,434,595	911,340,974
（分配準備積立金）	186,848,092	181,349,402
元本等合計	5,695,674,755	8,749,005,930
純資産合計	5,695,674,755	8,749,005,930
負債純資産合計	5,706,029,829	8,765,897,832

（2）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	53	399
有価証券売買等損益	136,574,332	41,204,557
営業収益合計	136,574,279	41,204,158
営業費用		
支払利息	3,419	20,169
受託者報酬	765,864	1,736,566
委託者報酬	5,743,921	13,024,213
その他費用	68,873	156,232
営業費用合計	6,582,077	14,937,180
営業利益又は営業損失（ ）	143,156,356	56,141,338

	第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
経常利益又は経常損失()	143,156,356	56,141,338
中間純利益又は中間純損失()	143,156,356	56,141,338
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	1,050,695	3,449,685
期首剰余金又は期首欠損金()	254,907,942	644,434,595
剰余金増加額又は欠損金減少額	252,079,421	346,275,464
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	252,079,421	346,275,464
剰余金減少額又は欠損金増加額	13,137,257	26,677,432
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	13,137,257	26,677,432
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	351,744,445	911,340,974

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	1,852,631,865円	5,051,240,160円
期中追加設定元本額	3,473,234,760円	3,000,525,534円
期中一部解約元本額	274,626,465円	214,100,738円
2. 受益権の総数	5,051,240,160口	7,837,664,956口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませ	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。	(1) 有価証券
	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。	同左
	(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コールローン等)は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(2) デリバティブ取引
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
		(3) 上記以外の金融商品
		同左

(有価証券に関する注記)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1,1276円	1,1163円
(1万口当たり純資産額)	(11,276円)	(11,163円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)】

(1) 【中間貸借対照表】

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	3,371,208
コール・ローン	47,791,863	105,644,871
親投資信託受益証券	5,909,628,343	8,729,494,980
未収入金	22,429,488	245,865
流動資産合計	5,979,849,694	8,838,756,924
資産合計	5,979,849,694	8,838,756,924
負債の部		
流動負債		
未払解約金	496,055	6,342,639
未払受託者報酬	1,164,097	1,750,210
未払委託者報酬	9,312,763	14,001,674
未払利息	49	310
その他未払費用	104,704	157,459
流動負債合計	11,077,668	22,252,292
負債合計	11,077,668	22,252,292
純資産の部		
元本等		
元本	4,553,711,564	6,768,618,464
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,415,060,462	2,047,886,168
（分配準備積立金）	342,639,980	328,946,953
元本等合計	5,968,772,026	8,816,504,632
純資産合計	5,968,772,026	8,816,504,632
負債純資産合計	5,979,849,694	8,838,756,924

（ 2 ）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	60	409
有価証券売買等損益	185,766,419	3,553,503
営業収益合計	185,766,359	3,553,094
営業費用		
支払利息	3,929	20,509
受託者報酬	867,298	1,750,210
委託者報酬	6,938,282	14,001,674
その他費用	77,999	157,459
営業費用合計	7,887,508	15,929,852
営業利益又は営業損失（ ）	193,653,867	19,482,946
経常利益又は経常損失（ ）	193,653,867	19,482,946
中間純利益又は中間純損失（ ）	193,653,867	19,482,946
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,222,654	4,720,461
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	706,042,708	1,415,060,462
剰余金増加額又は欠損金減少額	407,514,154	725,269,136
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	407,514,154	725,269,136
剰余金減少額又は欠損金増加額	38,793,870	77,680,945
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	38,793,870	77,680,945
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	883,331,779	2,047,886,168

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	2,258,194,553円	4,553,711,564円
期中追加設定元本額	2,595,476,935円	2,468,244,105円
期中一部解約元本額	299,959,924円	253,337,205円
2. 受益権の総数	4,553,711,564口	6,768,618,464口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 (2) デリバティブ取引	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引

区分	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>同左</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>同左</p> <p>同左</p>

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.3107円	1.3026円
(1万口当たり純資産額)	(13,107円)	(13,026円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）】

（1）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	696,682
コール・ローン	31,387,387	67,475,327
親投資信託受益証券	2,945,194,827	5,448,769,796
未収入金	6,462,483	-
流動資産合計	2,983,044,697	5,516,941,805
資産合計	2,983,044,697	5,516,941,805

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
負債の部		
流動負債		
未払解約金	3,300,671	3,433,266
未払受託者報酬	561,806	1,071,821
未払委託者報酬	4,494,406	8,574,520
未払利息	32	198
その他未払費用	50,501	96,406
流動負債合計	8,407,416	13,176,211
負債合計		
	8,407,416	13,176,211
純資産の部		
元本等		
元本	2,457,611,197	4,564,144,479
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	517,026,084	939,621,115
（分配準備積立金）	174,629,909	166,443,852
元本等合計	2,974,637,281	5,503,765,594
純資産合計		
	2,974,637,281	5,503,765,594
負債純資産合計		
	2,983,044,697	5,516,941,805

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	27	253
有価証券売買等損益	96,763,852	20,867,260
営業収益合計	96,763,825	20,867,513
営業費用		
支払利息	1,735	12,776
受託者報酬	398,139	1,071,821
委託者報酬	3,185,048	8,574,520
その他費用	35,771	96,406
営業費用合計	3,620,693	9,755,523
営業利益又は営業損失（ ）	100,384,518	11,111,990
経常利益又は経常損失（ ）	100,384,518	11,111,990
中間純利益又は中間純損失（ ）	100,384,518	11,111,990
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	844,161	3,458,685
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	221,113,021	517,026,084
剰余金増加額又は欠損金減少額	145,828,062	447,994,454
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	145,828,062	447,994,454
剰余金減少額又は欠損金増加額	11,370,315	39,970,098
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	11,370,315	39,970,098
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	256,030,411	939,621,115

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
--------------------	---

2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	<p>ファンドの計算期間</p> <p>当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。</p>
-------------------------	--

(中間貸借対照表に関する注記)

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	1,074,757,926円	2,457,611,197円
期中追加設定元本額	1,528,725,272円	2,301,948,673円
期中一部解約元本額	145,872,001円	195,415,391円
2. 受益権の総数	2,457,611,197口	4,564,144,479口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券</p> <p>売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記) に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>上記以外の金融商品(コールローン等) は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>同左</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>同左</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>同左</p>

区分	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.2104円	1.2059円
(1万口当たり純資産額)	(12,104円)	(12,059円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）】

（1）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	40,857
コール・ローン	43,035,570	68,747,651
親投資信託受益証券	3,341,253,035	5,621,166,909
未収入金	-	977,124
流動資産合計	3,384,288,605	5,690,932,541
資産合計	3,384,288,605	5,690,932,541
負債の部		
流動負債		
未払解約金	3,719,377	3,009,432
未払受託者報酬	653,701	1,103,279
未払委託者報酬	5,229,550	8,826,178
未払利息	44	201
その他未払費用	58,769	99,233
流動負債合計	9,661,441	13,038,323
負債合計	9,661,441	13,038,323

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
純資産の部		
元本等		
元本	2,416,493,166	4,076,623,193
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	958,133,998	1,601,271,025
（分配準備積立金）	269,254,150	258,182,987
元本等合計	3,374,627,164	5,677,894,218
純資産合計	3,374,627,164	5,677,894,218
負債純資産合計	3,384,288,605	5,690,932,541

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	33	261
有価証券売買等損益	128,136,306	28,927,979
営業収益合計	128,136,273	28,928,240
営業費用		
支払利息	2,179	13,148
受託者報酬	486,433	1,103,279
委託者報酬	3,891,400	8,826,178
その他費用	43,718	99,233
営業費用合計	4,423,730	10,041,838
営業利益又は営業損失（ ）	132,560,003	18,886,402
経常利益又は経常損失（ ）	132,560,003	18,886,402
中間純利益又は中間純損失（ ）	132,560,003	18,886,402
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	1,911,966	2,884,653
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	492,431,134	958,133,998
剰余金増加額又は欠損金減少額	237,585,970	681,125,729
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	237,585,970	681,125,729
剰余金減少額又は欠損金増加額	28,079,765	59,759,757
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	28,079,765	59,759,757
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	571,289,302	1,601,271,025

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	1,274,639,012円	2,416,493,166円
期中追加設定元本額	1,332,368,887円	1,813,494,895円
期中一部解約元本額	190,514,733円	153,364,868円
2. 受益権の総数	2,416,493,166口	4,076,623,193口

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

第7期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第8期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>（1）有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>（2）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>（3）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>（1）有価証券 同左</p> <p>（2）デリバティブ取引 同左</p> <p>（3）上記以外の金融商品 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）
取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第7期 [令和 4年 9月12日現在]	第8期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.3965円	1.3928円
(1万口当たり純資産額)	(13,965円)	(13,928円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）】

（1）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	640,018
コール・ローン	13,689,197	35,220,184
親投資信託受益証券	1,494,035,916	2,864,562,893
未収入金	4,345,308	529,910
流動資産合計	1,512,070,421	2,900,953,005
資産合計	1,512,070,421	2,900,953,005
負債の部		
流動負債		
未払解約金	588,957	2,788,174
未払受託者報酬	278,242	541,024
未払委託者報酬	2,225,863	4,328,120
未払利息	14	103
その他未払費用	24,976	48,632
流動負債合計	3,118,052	7,706,053
負債合計	3,118,052	7,706,053
純資産の部		
元本等		
元本	1,202,732,317	2,307,841,666
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	306,220,052	585,405,286
（分配準備積立金）	96,365,389	92,395,619
元本等合計	1,508,952,369	2,893,246,952
純資産合計	1,508,952,369	2,893,246,952
負債純資産合計	1,512,070,421	2,900,953,005

（2）【中間損益及び剰余金計算書】

	第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	13	130
有価証券売買等損益	53,276,304	23,932,566
営業収益合計	53,276,291	23,932,696
営業費用		
支払利息	858	6,315
受託者報酬	188,278	541,024
委託者報酬	1,506,161	4,328,120
その他費用	16,886	48,632
営業費用合計	1,712,183	4,924,091
営業利益又は営業損失()	54,988,474	19,008,605
経常利益又は経常損失()	54,988,474	19,008,605
中間純利益又は中間純損失()	54,988,474	19,008,605
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	1,116,376	1,432,244
期首剰余金又は期首欠損金()	124,786,548	306,220,052
剰余金増加額又は欠損金減少額	83,429,874	279,512,145
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	83,429,874	279,512,145
剰余金減少額又は欠損金増加額	13,609,461	20,767,760
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	13,609,461	20,767,760
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	140,734,863	585,405,286

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	511,249,702円	1,202,732,317円
期中追加設定元本額	814,434,627円	1,189,252,525円
期中一部解約元本額	122,952,012円	84,143,176円
2. 受益権の総数	1,202,732,317口	2,307,841,666口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第5期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第6期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 同左 (3) 上記以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第5期 [令和 4年 9月12日現在]	第6期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.2546円	1.2537円
(1万口当たり純資産額)	(12,546円)	(12,537円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第4期 [令和 4年 9月12日現在]	第5期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	5,241,869
コール・ローン	18,429,494	32,648,474
親投資信託受益証券	1,558,859,567	2,287,767,547
未収入金	-	859,010
流動資産合計	1,577,289,061	2,326,516,900
資産合計		
	1,577,289,061	2,326,516,900
負債の部		
流動負債		
未払解約金	259,817	7,627,219
未払受託者報酬	287,466	433,078
未払委託者報酬	2,299,679	3,464,575
未払利息	18	96
その他未払費用	25,810	38,911
流動負債合計	2,872,790	11,563,879
負債合計		
	2,872,790	11,563,879
純資産の部		
元本等		
元本	1,174,961,578	1,727,846,043
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	399,454,693	587,106,978
（分配準備積立金）	91,449,362	81,594,057
元本等合計	1,574,416,271	2,314,953,021
純資産合計		
	1,574,416,271	2,314,953,021
負債純資産合計		
	1,577,289,061	2,326,516,900

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第4期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第5期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	15	106
有価証券売買等損益	58,467,505	17,367,523
営業収益合計	58,467,490	17,367,629
営業費用		
支払利息	916	5,545
受託者報酬	191,379	433,078
委託者報酬	1,530,999	3,464,575
その他費用	17,158	38,911
営業費用合計	1,740,452	3,942,109
営業利益又は営業損失（ ）	60,207,942	13,425,520

	第4期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第5期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
経常利益又は経常損失（ ）	60,207,942	13,425,520
中間純利益又は中間純損失（ ）	60,207,942	13,425,520
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,572,097	2,765,113
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	173,009,680	399,454,693
剰余金増加額又は欠損金減少額	116,538,012	229,672,398
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	116,538,012	229,672,398
剰余金減少額又は欠損金増加額	34,043,464	58,210,746
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	34,043,464	58,210,746
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	197,868,383	587,106,978

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第4期 [令和 4年 9月12日現在]	第5期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	534,439,877円	1,174,961,578円
期中追加設定元本額	919,249,973円	727,916,923円
期中一部解約元本額	278,728,272円	175,032,458円
2. 受益権の総数	1,174,961,578口	1,727,846,043口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第4期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第5期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	第4期 [令和 4年 9月12日現在]	第5期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませ	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記) に記載しております。	(1) 有価証券
	(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。	同左
	(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品 (コールローン等) は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(2) デリバティブ取引
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(1 口当たり情報)

	第4期 [令和 4年 9月12日現在]	第5期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.3400円	1.3398円
(1万口当たり純資産額)	(13,400円)	(13,398円)

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065 (確定拠出年金) 】

(1) 【 中間貸借対照表 】

	第2期 [令和 4年 9月12日現在]	第3期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	2,946,294
コール・ローン	7,283,086	12,368,776
親投資信託受益証券	625,409,931	884,695,719
未収入金	-	13,986,933
流動資産合計	632,693,017	913,997,722
資産合計	632,693,017	913,997,722
負債の部		
流動負債		
未払解約金	136,930	16,532,438
未払受託者報酬	99,544	165,331
未払委託者報酬	796,265	1,322,568
未払利息	7	36
その他未払費用	8,892	14,822
流動負債合計	1,041,638	18,035,195
負債合計	1,041,638	18,035,195
純資産の部		
元本等		
元本	515,777,395	731,663,532
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	115,873,984	164,298,995
（分配準備積立金）	22,349,355	19,782,249
元本等合計	631,651,379	895,962,527
純資産合計	631,651,379	895,962,527
負債純資産合計	632,693,017	913,997,722

（ 2 ）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第2期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第3期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
営業収益		
受取利息	2	37
有価証券売買等損益	13,113,802	6,557,607
営業収益合計	13,113,800	6,557,644
営業費用		
支払利息	142	2,131
受託者報酬	38,073	165,331
委託者報酬	304,507	1,322,568
その他費用	3,374	14,822
営業費用合計	346,096	1,504,852
営業利益又は営業損失（ ）	13,459,896	5,052,792
経常利益又は経常損失（ ）	13,459,896	5,052,792
中間純利益又は中間純損失（ ）	13,459,896	5,052,792
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	1,237,453	945,111
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	19,271,839	115,873,984
剰余金増加額又は欠損金減少額	33,872,242	59,394,946
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	33,872,242	59,394,946
剰余金減少額又は欠損金増加額	9,861,199	16,967,838
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	9,861,199	16,967,838
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	31,060,439	164,298,995

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年9月10日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日のため、当中間計算期間は令和 4年 9月13日から令和 5年 3月12日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第2期 [令和 4年 9月12日現在]	第3期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 期首元本額	91,852,704円	515,777,395円
期中追加設定元本額	529,051,503円	293,421,374円
期中一部解約元本額	105,126,812円	77,535,237円
2. 受益権の総数	515,777,395口	731,663,532口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第2期中間計算期間 自 令和 3年 9月11日 至 令和 4年 3月10日	第3期中間計算期間 自 令和 4年 9月13日 至 令和 5年 3月12日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	第2期 [令和 4年 9月12日現在]	第3期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、(重要な会計方針に係る事項に関する注記) に記載しております。 (2) デリバティブ取引	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引

区分	第2期 [令和 4年 9月12日現在]	第3期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>同左</p> <p>(3) 上記以外の金融商品</p> <p>同左</p> <p>同左</p>

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第2期 [令和 4年 9月12日現在]	第3期中間計算期間末 [令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.2247円	1.2246円
(1万口当たり純資産額)	(12,247円)	(12,246円)

（参考）

当ファンドの主要投資対象の状況は以下の通りです。
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

TOPIXマザーファンド

貸借対照表

（単位：円）

[令和 5年 3月12日現在]

資産の部

流動資産

[令和 5年 3月12日現在]

コール・ローン	65,776,665,460
株式	898,684,951,696
未収入金	3,735,306
未収配当金	1,527,601,501
未収利息	288,838
その他未収収益	64,690,236
差入委託証拠金	204,930,000
流動資産合計	966,262,863,037
資産合計	966,262,863,037
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	55,085,950
前受金	48,070,000
未払金	209,808,125
未払解約金	1,760,486,030
未払利息	64,551
受入担保金	61,109,833,186
流動負債合計	63,183,347,842
負債合計	63,183,347,842
純資産の部	
元本等	
元本	375,482,442,595
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	527,597,072,600
元本等合計	903,079,515,195
純資産合計	903,079,515,195
負債純資産合計	966,262,863,037

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[令和 5年 3月12日現在]
1. 期首	令和 4年 9月13日
期首元本額	368,020,194,119円
期中追加設定元本額	79,679,628,288円
期中一部解約元本額	72,217,379,812円
元本の内訳	
三菱UFJ トピックスインデックスオープン	7,224,585,426円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定型)	941,724,879円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)	3,891,847,556円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(成長型)	3,563,542,473円

	[令和 5年 3月12日現在]
三菱UFJ トピックスオープン(確定拠出年金)	3,429,836,283円
三菱UFJ プライムバランス(安定型)(確定拠出年金)	7,352,652,543円
三菱UFJ プライムバランス(安定成長型)(確定拠出年金)	38,529,414,441円
三菱UFJ プライムバランス(成長型)(確定拠出年金)	42,227,355,589円
三菱UFJ 6資産バランスファンド(2ヵ月分配型)	106,866,189円
三菱UFJ 6資産バランスファンド(成長型)	279,211,956円
ファンド・マネジャー(国内株式)	629,294,560円
eMAXIS TOPIXインデックス	7,063,188,430円
eMAXIS バランス(8資産均等型)	2,288,545,238円
eMAXIS バランス(波乗り型)	118,906,370円
三菱UFJ プライムバランス(8資産)(確定拠出年金)	2,872,277,040円
コアバランス	213,831円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)	925,680,001円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)	1,064,561,473円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)	924,100,186円
eMAXIS Slim 国内株式(TOPIX)	27,223,965,863円
国内株式セレクション(ラップ向け)	4,166,049,737円
eMAXIS Slim バランス(8資産均等型)	9,570,892,666円
つみたて日本株式(TOPIX)	7,025,178,317円
つみたて8資産均等バランス	4,492,008,597円
つみたて4資産均等バランス	1,495,698,285円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	2,538,423円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	4,212,285円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	6,700,388円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)	726,355,594円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)	802,845,378円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)	519,110,781円
三菱UFJ DC年金バランス(株式15)	465,861,593円
三菱UFJ DC年金バランス(株式40)	1,508,705,506円
三菱UFJ DC年金バランス(株式65)	2,927,974,389円
eMAXIS Slim 全世界株式(3地域均等型)	946,836,295円
三菱UFJ DC年金インデックス(国内株式)	2,389,600,879円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)	434,856,846円
三菱UFJ DC年金バランス(株式25)	141,357,839円
国内株式インデックス・オープン(ラップ向け)	16,085,955,244円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)	167,076,136円

[令和 5年 3月12日現在]

ラップ向けインデックスf 国内株式	3,864,264,594円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(保守型)	133,719,099円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(標準型)	1,139,877,378円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(積極型)	696,884,798円
三菱UFJ DC年金バランス(株式80)	13,041,726円
ダイナミックアロケーションファンド(ラップ向け)	11,676,308,657円
ラップ向けダイナミックアロケーションファンド	86,469,295円
ラップ向けアクティブアロケーションファンド	9,943,590円
アクティブアロケーションファンド(ラップ向け)	36,538,647円
三菱UFJ バランス・イノベーション(株式抑制型)	1,114,497,159円
三菱UFJ バランス・イノベーション(株式重視型)	2,265,156,918円
三菱UFJ バランス・イノベーション(新興国投資型)	446,851,252円
三菱UFJ DCバランス・イノベーション(KAKUSHIN)	1,068,495,900円
三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)	518,283,034円
三菱UFJ アドバンスト・バランス(安定型)	16,659,048円
三菱UFJ アドバンスト・バランス(安定成長型)	115,318,127円
eMAXIS バランス(4資産均等型)	644,308,009円
eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	145,084,417円
eMAXIS 最適化バランス(マイディフェンダー)	160,613,074円
eMAXIS 最適化バランス(マイミッドフィルダー)	579,093,622円
eMAXIS 最適化バランス(マイフォワード)	474,058,295円
eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	909,734,480円
三菱UFJ トピックスオープン	985,660,445円
三菱UFJ DCトピックスオープン	8,013,003,602円
三菱UFJ トピックスオープンVA(適格機関投資家限定)	64,835,578円
三菱UFJ トピックスインデックスファンドVA(適格機関投資家限定)	5,385,429,510円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)VA(適格機関投資家限定)	56,660円
三菱UFJ バランスファンド45VA(適格機関投資家限定)	9,996,987円
三菱UFJ バランスファンド40VA(適格機関投資家限定)	5,004,201,456円
三菱UFJ バランスファンドVA 20型(適格機関投資家限定)	96,594,750円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)	1,611,548,777円
MUAM 日本株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	33,018,174,292円
三菱UFJ バランスファンドVA 50型(適格機関投資家限定)	247,159,894円
三菱UFJ バランスファンド55VA(適格機関投資家限定)	263,431円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型(適格機関投資家限定)	1,177,293円
三菱UFJ バランスファンド50VA(適格機関投資家限定)	258,826,143円
三菱UFJ バランスファンド20VA(適格機関投資家限定)	465,237,005円

	[令和 5年 3月12日現在]
MUAM インデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	4,917,717,465円
MUKAM バランス・イノベーション(株式抑制型)(適格機関投資家転売制限付)	3,181,833,989円
MUKAM バランス・イノベーション(リスク抑制型)(適格機関投資家転売制限付)	946,685,041円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション(適格機関投資家転売制限付)	608,379,349円
世界8資産バランスファンドVL(適格機関投資家限定)	87,202,459円
MUKAM 下方リスク抑制型バランスファンド(適格機関投資家限定)	3,985,985,936円
MUKAM バランス・イノベーション(債券重視型)(適格機関投資家転売制限付)	172,738,777円
MUKAM 日本株式インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	3,271,634,785円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2(適格機関投資家限定)	605,539,391円
MUKAM バランス・イノベーション(リスク抑制型)2(適格機関投資家転売制限付)	83,178,469円
マルチアセット運用戦略ファンド(適格機関投資家限定)	233,613円
日米コアバランス(FOFs用)(適格機関投資家限定)	163,913,836円
日本株式インデックスファンドS	921,757,229円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-07(適格機関投資家限定)	35,980,732円
MUKAM 米国国債プラス日本株式ファンド2020-07(適格機関投資家限定)	117,460,290円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-09(適格機関投資家限定)	35,434,968円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-11(適格機関投資家限定)	35,501,352円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-01(適格機関投資家限定)	35,160,631円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-03(適格機関投資家限定)	35,822,253円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-05(適格機関投資家限定)	35,950,680円
MUKAM 日米コアバランス 2021-07(適格機関投資家限定)	436,946,228円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-07(適格機関投資家限定)	34,885,307円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-09(適格機関投資家限定)	34,844,004円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-11(適格機関投資家限定)	35,768,349円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-01(適格機関投資家限定)	35,818,860円

	[令和 5年 3月12日現在]
MUKAM 日米コアバランス（除く米国株）2022-03（適格機関投資家限定）	886,487,304円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-03（適格機関投資家限定）	40,180,532円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-05（適格機関投資家限定）	39,815,667円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-07（適格機関投資家限定）	40,598,807円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-09（適格機関投資家限定）	40,095,797円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-11（適格機関投資家限定）	39,470,553円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-01（適格機関投資家限定）	39,980,785円
三菱UFJ TOPIX・ファンド	5,034,075,298円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定型）VA	3,271,333円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定成長型）VA	9,442,378円
インデックス・ライフ・バランスファンド（成長型）VA	2,775,050円
インデックス・ライフ・バランスファンド（積極型）VA	6,623,175円
三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1	574,468,239円
三菱UFJ TOPIX・ファンドVA	100,215,258円
三菱UFJ バランスVA30D（適格機関投資家限定）	4,581,167円
三菱UFJ バランスVA60D（適格機関投資家限定）	39,366,294円
三菱UFJ バランスVA30G（適格機関投資家限定）	3,267,284円
三菱UFJ バランスVA60G（適格機関投資家限定）	30,612,481円
三菱UFJ <DC>TOPIX・ファンド	1,597,533,202円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定型）	395,473,761円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定成長型）	1,631,557,242円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（成長型）	1,504,332,247円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（積極型）	1,360,624,466円
三菱UFJ DC国内株式インデックスファンド	56,386,267,835円
合計	375,482,442,595円
2. 貸付有価証券 貸借取引契約により以下の通り有価証券の貸付を行っております。 株式	57,707,752,160円
3. 受益権の総数	375,482,442,595口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 5年 3月12日現在]
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

株式関連

[令和 5年 3月12日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	4,646,410,000		4,591,450,000	54,960,000
	合計	4,646,410,000		4,591,450,000	54,960,000

（注）時価の算定方法

- 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
 原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
- 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
 上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

（1口当たり情報）

	[令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	2.4051円
(1万口当たり純資産額)	(24,051円)

外国株式インデックスマザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[令和 5年 3月12日現在]

資産の部	
流動資産	
預金	73,222,041,495
コール・ローン	5,692,173,803
株式	2,074,614,472,209
投資証券	47,209,088,421
派生商品評価勘定	177,662,101
未収入金	1,513,163
未収配当金	3,905,514,914
差入委託証拠金	17,384,785,981
流動資産合計	2,222,207,252,087
資産合計	2,222,207,252,087
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	3,037,567,515
未払金	1,342,426
未払解約金	673,700,172
未払利息	5,586
流動負債合計	3,712,615,699
負債合計	3,712,615,699
純資産の部	
元本等	
元本	470,049,468,135
剰余金	
剰余金又は欠損金()	1,748,445,168,253
元本等合計	2,218,494,636,388
純資産合計	2,218,494,636,388
負債純資産合計	2,222,207,252,087

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。 為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[令和 5年 3月12日現在]
1. 期首	令和 4年 9月13日
期首元本額	388,343,838,702円
期中追加設定元本額	118,620,685,498円
期中一部解約元本額	36,915,056,065円
元本の内訳	
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定型）	218,295,602円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定成長型）	987,577,289円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（成長型）	877,670,799円
MAXIS 海外株式（MSCIコクサイ）上場投信	2,987,427,018円
MAXIS 全世界株式（オール・カントリー）上場投信	3,843,904,936円
三菱UFJ プライムバランス（安定型）（確定拠出年金）	1,704,362,718円
三菱UFJ プライムバランス（安定成長型）（確定拠出年金）	9,777,002,723円
三菱UFJ プライムバランス（成長型）（確定拠出年金）	10,400,204,994円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（2ヵ月分配型）	53,070,792円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（成長型）	138,912,191円
ファンド・マネジャー（海外株式）	781,173円
eMAXIS 先進国株式インデックス	13,589,082,867円
eMAXIS バランス（8資産均等型）	1,131,053,471円
eMAXIS バランス（波乗り型）	259,559,843円
三菱UFJ プライムバランス（8資産）（確定拠出年金）	1,768,537,252円
コアバランス	168,337円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）	213,168,399円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）	255,472,097円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）	235,616,989円
eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	86,553,246,140円
海外株式セレクション（ラップ向け）	2,302,889,316円
eMAXIS Slim バランス（8資産均等型）	4,745,585,503円
つみたて先進国株式	22,498,361,576円
つみたて8資産均等バランス	2,226,992,162円
つみたて4資産均等バランス	741,350,772円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	1,895,623円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	3,262,784円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	5,051,572円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）	180,915,499円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）	193,867,430円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）	126,269,952円
三菱UFJ DC年金バランス（株式15）	57,368,926円

[令和5年3月12日現在]

三菱UFJ DC年金バランス(株式40)	445,902,925円
三菱UFJ DC年金バランス(株式65)	1,024,783,881円
eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)	40,618,886,987円
eMAXIS Slim 全世界株式(3地域均等型)	473,862,980円
三菱UFJ DC年金インデックス(先進国株式)	3,361,911,985円
eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カンントリー)	163,428,521,906円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)	110,677,577円
三菱UFJ DC年金バランス(株式25)	39,167,460円
つみたて全世界株式	186,666,897円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)	42,954,953円
ラップ向けインデックスf 先進国株式	2,246,972,119円
三菱UFJ DC年金バランス(株式80)	14,134,474円
ダイナミックアロケーションファンド(ラップ向け)	5,826,026,971円
ラップ向けダイナミックアロケーションファンド	42,920,928円
三菱UFJ DC海外株式インデックスファンド	29,167,385,448円
eMAXIS 全世界株式インデックス	4,535,250,040円
三菱UFJ バランス・イノベーション(株式抑制型)	545,880,291円
三菱UFJ バランス・イノベーション(株式重視型)	1,049,393,048円
三菱UFJ バランス・イノベーション(新興国投資型)	194,101,075円
三菱UFJ DCバランス・イノベーション(KAKUSHIN)	534,384,270円
三菱UFJ バランス・イノベーション(債券重視型)	252,822,969円
eMAXIS バランス(4資産均等型)	319,507,342円
eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	89,878,970円
eMAXIS 最適化バランス(マイディフェンダー)	113,033,217円
eMAXIS 最適化バランス(マイミッドフィルダー)	460,796,236円
eMAXIS 最適化バランス(マイフォワード)	364,558,980円
eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	685,554,963円
三菱UFJ 外国株式ファンドVA(適格機関投資家限定)	1,601,383,880円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)VA(適格機関投資家限定)	14,379円
三菱UFJ バランスファンド45VA(適格機関投資家限定)	6,158,831円
三菱UFJ バランスファンド40VA(適格機関投資家限定)	4,144,554,173円
三菱UFJ バランスファンドVA 20型(適格機関投資家限定)	48,060,613円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)	801,720,930円
MUAM 外国株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	10,730,422,208円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型(適格機関投資家限定)	585,318円
三菱UFJ バランスファンド50VA(適格機関投資家限定)	636,263,188円
MUAM 全世界株式インデックスファンド(適格機関投資家限定)	5,326,137,242円

	[令和 5年 3月12日現在]
アドバンスト・バランス (F O F s 用) (適格機関投資家限定)	9,208,601円
アドバンスト・バランス (F O F s 用) (適格機関投資家限定)	64,872,362円
MUKAM バランス・イノベーション (株式抑制型) (適格機関投資家転売制限付)	1,547,578,930円
MUKAM バランス・イノベーション (リスク抑制型) (適格機関投資家転売制限付)	485,753,939円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション (適格機関投資家転売制限付)	375,225,753円
世界8資産バランスファンドVL (適格機関投資家限定)	53,693,036円
MUKAM 下方リスク抑制型バランスファンド (適格機関投資家限定)	1,696,061,887円
MUKAM バランス・イノベーション (債券重視型) (適格機関投資家転売制限付)	87,719,038円
MUKAM 外国株式インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	2,349,306,074円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2 (適格機関投資家限定)	373,741,168円
MUKAM バランス・イノベーション (リスク抑制型) 2 (適格機関投資家転売制限付)	40,848,845円
マルチアセット運用戦略ファンド (適格機関投資家限定)	120,434円
外国株式インデックスファンドV (適格機関投資家限定)	2,474,570,780円
海外株式インデックスファンドS	2,166,739,824円
三菱UFJ 外国株式インデックスファンド	2,690,695,980円
インデックス・ライフ・バランスファンド (安定型) VA	810,317円
インデックス・ライフ・バランスファンド (安定成長型) VA	2,342,042円
インデックス・ライフ・バランスファンド (成長型) VA	787,842円
インデックス・ライフ・バランスファンド (積極型) VA	2,054,635円
三菱UFJ 外国株式インデックスファンドVA	24,324,014円
三菱UFJ バランスVA30D (適格機関投資家限定)	1,137,705円
三菱UFJ バランスVA60D (適格機関投資家限定)	9,808,831円
三菱UFJ バランスVA30G (適格機関投資家限定)	1,633,046円
三菱UFJ バランスVA60G (適格機関投資家限定)	15,172,897円
三菱UFJ <DC>外国株式インデックスファンド	6,671,655,294円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定型)	98,123,571円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (安定成長型)	404,814,704円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (成長型)	428,533,779円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド (積極型)	421,966,408円
合計	470,049,468,135円
2. 受益権の総数	470,049,468,135口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 5年 3月12日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。</p> <p>(3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

株式関連

[令和 5年 3月12日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	99,436,568,840		96,609,723,618	2,826,845,222
	合計	99,436,568,840		96,609,723,618	2,826,845,222

（注）時価の算定方法

- 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
 原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
- 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
 上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

通貨関連

[令和 5年 3月12日現在]

--	--	--	--	--

区分	種類	契約額等(円)	うち1年超	時価(円)	評価損益(円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	アメリカドル	4,325,246,948		4,297,265,240	27,981,708
	カナダドル	216,926,950		215,335,863	1,591,087
	オーストラリアドル	80,615,575		79,977,973	637,602
	イギリスポンド	277,989,546		277,889,635	99,911
	スイスフラン	204,005,187		204,319,366	314,179
	香港ドル	37,547,856		37,244,995	302,861
	シンガポールドル	23,794,690		23,620,837	173,853
	スウェーデンクローネ	64,935,799		64,596,568	339,231
	ノルウェークローネ	13,635,369		13,632,806	2,563
	デンマーククローネ	48,423,005		48,271,868	151,137
	イスラエルシェケル	23,605,136		23,366,498	238,638
	ユーロ	666,339,307		664,473,141	1,866,166
	売建				
	オーストラリアドル	90,626,219		90,625,915	304
	香港ドル	44,021,847		44,010,917	10,930
	デンマーククローネ	13,662,723		13,663,571	848
	合計		6,131,376,157		6,098,295,193

(注)時価の算定方法

- 1 対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

為替予約の受渡日(以下「当該日」といいます。)の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は、当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。

当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

(イ) 当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

(ロ) 当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

- 2 対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

(1口当たり情報)

	[令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	4.7197円
(1万口当たり純資産額)	(47,197円)

貸借対照表

(単位：円)

[令和 5年 3月12日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	1,179,720,137
国債証券	580,906,251,440
地方債証券	38,321,815,105
特殊債証券	33,463,917,184
社債証券	42,523,959,000
派生商品評価勘定	2,715,600
未収入金	99,369,000
未収利息	1,686,776,885
前払金	1,640,000
前払費用	83,624,317
差入委託証拠金	7,200,000
流動資産合計	698,276,988,668
資産合計	698,276,988,668
負債の部	
流動負債	
未払金	100,000,000
未払解約金	318,437,107
未払利息	1,157
流動負債合計	418,438,264
負債合計	418,438,264
純資産の部	
元本等	
元本	542,458,819,806
剰余金	
剰余金又は欠損金()	155,399,730,598
元本等合計	697,858,550,404
純資産合計	697,858,550,404
負債純資産合計	698,276,988,668

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引は金融商品取引所等における清算値段で評価しております。

(貸借対照表に関する注記)

	[令和 5年 3月12日現在]
1. 期首	令和 4年 9月13日
期首元本額	531,920,504,900円
期中追加設定元本額	68,190,977,794円
期中一部解約元本額	57,652,662,888円

[令和 5年 3月12日現在]

元本の内訳	
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定型)	6,816,030,129円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)	9,096,476,346円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(成長型)	2,225,062,684円
三菱UFJ プライムバランス(安定型)(確定拠出年金)	53,216,796,306円
三菱UFJ プライムバランス(安定成長型)(確定拠出年金)	90,055,018,108円
三菱UFJ プライムバランス(成長型)(確定拠出年金)	26,366,526,173円
三菱UFJ 6資産バランスファンド(2ヵ月分配型)	190,912,838円
三菱UFJ 6資産バランスファンド(成長型)	169,932,321円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド	2,104,840,924円
eMAXIS 国内債券インデックス	6,811,571,665円
eMAXIS バランス(8資産均等型)	3,799,370,257円
eMAXIS バランス(波乗り型)	82,625,538円
三菱UFJ プライムバランス(8資産)(確定拠出年金)	13,846,346,875円
三菱UFJ 国内債券インデックスファンド(確定拠出年金)	39,562,331,561円
コアバランス	2,353,810円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)	8,657,454,933円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040(確定拠出年金)	3,516,705,298円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050(確定拠出年金)	1,557,881,538円
eMAXIS Slim 国内債券インデックス	13,991,748,690円
国内債券セレクション(ラップ向け)	8,666,858,936円
eMAXIS Slim バランス(8資産均等型)	16,255,519,221円
つみたて8資産均等バランス	7,643,207,829円
つみたて4資産均等バランス	2,646,597,871円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	13,910,566円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	10,215,849円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	248,632円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035(確定拠出年金)	4,372,407,755円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045(確定拠出年金)	1,810,073,710円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055(確定拠出年金)	680,958,382円
三菱UFJ DC年金バランス(株式15)	4,776,743,900円
三菱UFJ DC年金バランス(株式40)	4,654,793,118円
三菱UFJ DC年金バランス(株式65)	2,405,578,290円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)	469,361,228円
三菱UFJ DC年金バランス(株式25)	924,825,234円
国内債券インデックスファンド(ラップ向け)	2,095,260,232円

	[令和 5年 3月12日現在]
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)	182,867,369円
ラップ向けインデックスf 国内債券	5,634,944,209円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(保守型)	2,218,694,881円
MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(標準型)	2,497,405,810円
三菱UFJ DC年金バランス(株式80)	1,916,247円
三菱UFJ アドバンスト・バランス(安定型)	112,114,045円
三菱UFJ アドバンスト・バランス(安定成長型)	150,524,199円
eMAXIS 債券バランス(2資産均等型)	69,787,455円
eMAXIS バランス(4資産均等型)	1,145,281,228円
eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	1,642,496,688円
eMAXIS 最適化バランス(マイディフェンダー)	871,822,282円
eMAXIS 最適化バランス(マイミッドフィルダー)	1,717,594,925円
eMAXIS 最適化バランス(マイフォワード)	87,474,847円
eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	33,683,690円
三菱UFJ 日本債券ファンドVA(適格機関投資家限定)	6,592,384,847円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)VA(適格機関投資家限定)	132,435円
三菱UFJ バランスファンド45VA(適格機関投資家限定)	27,418,062円
三菱UFJ バランスファンド40VA(適格機関投資家限定)	9,271,104,731円
三菱UFJ バランスファンドVA 20型(適格機関投資家限定)	724,637,201円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)	4,478,865,680円
MUAM 日本債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	115,246,038,780円
三菱UFJ バランスファンドVA 50型(適格機関投資家限定)	452,754,260円
三菱UFJ バランスファンド55VA(適格機関投資家限定)	1,438,666円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型(適格機関投資家限定)	2,169,275円
三菱UFJ バランスファンド50VA(適格機関投資家限定)	4,260,960,723円
三菱UFJ バランスファンド20VA(適格機関投資家限定)	2,596,267,182円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション(適格機関投資家転売制限付)	3,854,583,062円
世界8資産バランスファンドVL(適格機関投資家限定)	420,376,986円
MUKAM 日本債券インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	11,265,293,823円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2(適格機関投資家限定)	3,838,733,836円
マルチアセット運用戦略ファンド(適格機関投資家限定)	2,805,732円
日本債券インデックスファンドS	1,502,746,047円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-07(適格機関投資家限定)	429,832,474円
MUKAM アセットアロケーションファンド2020-09(適格機関投資家限定)	424,280,144円

[令和 5年 3月12日現在]

MUKAM アセットアロケーションファンド2020-11(適格機関投資家限定)	424,729,389円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-01(適格機関投資家限定)	421,626,267円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-03(適格機関投資家限定)	419,477,595円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-05(適格機関投資家限定)	420,955,442円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-07(適格機関投資家限定)	413,671,752円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-09(適格機関投資家限定)	416,234,104円
MUKAM アセットアロケーションファンド2021-11(適格機関投資家限定)	418,690,273円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-01(適格機関投資家限定)	416,840,490円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-03(適格機関投資家限定)	462,440,331円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-05(適格機関投資家限定)	469,323,041円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-07(適格機関投資家限定)	477,586,919円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-09(適格機関投資家限定)	478,244,702円
MUKAM アセットアロケーションファンド2022-11(適格機関投資家限定)	481,227,287円
MUKAM アセットアロケーションファンド2023-01(適格機関投資家限定)	490,248,647円
インデックス・ライフ・バランスファンド(安定型)VA	17,220,598円
インデックス・ライフ・バランスファンド(安定成長型)VA	24,483,486円
インデックス・ライフ・バランスファンド(成長型)VA	4,690,419円
インデックス・ライフ・バランスファンド(積極型)VA	8,278,070円
三菱UFJ バランスVA30D(適格機関投資家限定)	21,148,028円
三菱UFJ バランスVA60D(適格機関投資家限定)	54,548,869円
三菱UFJ バランスVA30G(適格機関投資家限定)	15,893,553円
三菱UFJ バランスVA60G(適格機関投資家限定)	47,072,971円
三菱UFJ <DC>日本債券インデックスファンド	4,238,491,587円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(安定型)	2,085,287,054円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(安定成長型)	4,212,154,681円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(成長型)	2,565,181,506円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド(積極型)	1,697,094,177円
合計	542,458,819,806円

	[令和 5年 3月12日現在]
2. 受益権の総数	542,458,819,806口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 5年 3月12日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>（１）有価証券</p> <p>売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>（２）デリバティブ取引</p> <p>デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。</p> <p>（３）上記以外の金融商品</p> <p>上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

債券関連

[令和 5年 3月12日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引	債券先物取引 買建	581,880,000		584,600,000	2,720,000
	合計	581,880,000		584,600,000	2,720,000

（注）時価の算定方法

- 先物取引の時価については、以下のように評価しております。
原則として、直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または終値で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、最も近い終値や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。
- 先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
- 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。
上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

(1口当たり情報)

	[令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.2865円
(1万口当たり純資産額)	(12,865円)

外国債券インデックスマザーファンド

貸借対照表

(単位 : 円)

[令和 5年 3月12日現在]

資産の部	
流動資産	
預金	1,897,064,730
コール・ローン	561,131,274
国債証券	398,068,500,069
派生商品評価勘定	43,767
未収利息	2,372,203,800
前払費用	395,002,392
流動資産合計	403,293,946,032
資産合計	403,293,946,032
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	82,794
未払解約金	518,182,322
未払利息	550
流動負債合計	518,265,666
負債合計	518,265,666
純資産の部	
元本等	
元本	178,024,488,587
剰余金	
剰余金又は欠損金 ()	224,751,191,779
元本等合計	402,775,680,366
純資産合計	402,775,680,366
負債純資産合計	403,293,946,032

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

（貸借対照表に関する注記）

	[令和 5年 3月12日現在]
1. 期首	令和 4年 9月13日
期首元本額	138,162,471,246円
期中追加設定元本額	61,291,005,003円
期中一部解約元本額	21,428,987,662円
元本の内訳	
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定型）	287,147,194円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（安定成長型）	611,324,415円
三菱UFJ ライフセレクトファンド（成長型）	369,437,711円
三菱UFJ 外国債券オープン	942,672,203円
三菱UFJ プライムバランス（安定型）（確定拠出年金）	2,241,930,123円
三菱UFJ プライムバランス（安定成長型）（確定拠出年金）	6,052,107,650円
三菱UFJ プライムバランス（成長型）（確定拠出年金）	4,377,760,659円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（2ヵ月分配型）	556,470,361円
三菱UFJ 6資産バランスファンド（成長型）	97,932,770円
ファンド・マネジャー（海外債券）	735,391,737円
eMAXIS 先進国債券インデックス	5,651,890,480円
eMAXIS バランス（8資産均等型）	2,341,753,007円
eMAXIS バランス（波乗り型）	234,084,520円
三菱UFJ プライムバランス（8資産）（確定拠出年金）	930,537,736円
コアバランス	1,332,373円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）	377,285,290円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）	194,088,469円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）	124,798,874円
eMAXIS Slim 先進国債券インデックス	27,301,007,397円
海外債券セレクション（ラップ向け）	5,632,377,387円
eMAXIS Slim バランス（8資産均等型）	10,007,005,074円
つみたて8資産均等バランス	4,712,727,882円
つみたて4資産均等バランス	1,563,834,143円
eMAXIS マイマネージャー 1970s	3,802,025円
eMAXIS マイマネージャー 1980s	1,930,058円
eMAXIS マイマネージャー 1990s	421,956円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）	192,924,769円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）	121,189,146円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）	63,664,223円

[令和5年3月12日現在]

三菱UFJ DC年金バランス(株式15)	603,707,118円
三菱UFJ DC年金バランス(株式40)	938,468,573円
三菱UFJ DC年金バランス(株式65)	1,198,227,252円
三菱UFJ DC年金インデックス(先進国債券)	1,426,776,207円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060(確定拠出年金)	51,135,986円
三菱UFJ DC年金バランス(株式25)	137,389,527円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065(確定拠出年金)	19,830,959円
ラップ向けインデックスf 先進国債券	1,859,083,324円
三菱UFJ DC年金バランス(株式80)	8,113,062円
ダイナミックアロケーションファンド(ラップ向け)	5,825,601,487円
ラップ向けダイナミックアロケーションファンド	41,996,553円
ラップ向けアクティブアロケーションファンド	16,575,638円
アクティブアロケーションファンド(ラップ向け)	59,106,044円
三菱UFJ 外国債券オープン(確定拠出年金)	3,013,310,956円
三菱UFJ 外国債券オープン(毎月分配型)	18,528,681,141円
ワールド・インカムオープン	1,069,269,095円
三菱UFJ DC海外債券インデックスファンド	14,739,186,586円
三菱UFJ 世界国債インデックスファンド(毎月分配型)	431,737,055円
三菱UFJ 世界国債インデックスファンド(年1回決算型)	1,855,525,204円
eMAXIS バランス(4資産均等型)	675,404,712円
eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	512,282,603円
eMAXIS 最適化バランス(マイディフェンダー)	253,979,314円
eMAXIS 最適化バランス(マイミッドフィルダー)	284,147,853円
eMAXIS 最適化バランス(マイフォワード)	148,864,152円
eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	57,116,106円
三菱UFJ 外国債券ファンドVA(適格機関投資家限定)	1,228,061,324円
三菱UFJ ライフセレクトファンド(安定成長型)VA(適格機関投資家限定)	8,899円
三菱UFJ 外国債券ファンドVA2(適格機関投資家限定)	14,326,374円
MUAM 世界債券オープン(適格機関投資家限定)	610,216,424円
三菱UFJ バランスファンド45VA(適格機関投資家限定)	12,966,111円
三菱UFJ バランスファンド40VA(適格機関投資家限定)	1,760,129,274円
三菱UFJ バランスファンドVA 40型(適格機関投資家限定)	1,274,972,220円
MUAM 外国債券インデックスファンド(適格機関投資家限定)	32,067,366,675円
三菱UFJ バランスファンドVA 50型(適格機関投資家限定)	518,185,283円
三菱UFJ バランスファンド55VA(適格機関投資家限定)	406,344円
三菱UFJ バランスファンドVA 30型(適格機関投資家限定)	839,890円
三菱UFJ バランスファンド20VA(適格機関投資家限定)	1,476,925,189円
アドバンスト・バランス(FOFs用)(適格機関投資家限定)	65,730,535円

	[令和 5年 3月12日現在]
アドバンスト・バランス（FOFs用）（適格機関投資家限定）	114,207,191円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション（適格機関投資家転売制限付）	672,493,265円
世界8資産バランスファンドVL（適格機関投資家限定）	28,251,244円
MUKAM 外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	2,785,418,872円
MUKAM スマート・クオリティ・セレクション2（適格機関投資家限定）	670,216,424円
外国債券インデックスファンドV（適格機関投資家限定）	735,552,907円
海外債券インデックスファンドS	1,229,644,768円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定型）VA	1,693,748円
インデックス・ライフ・バランスファンド（安定成長型）VA	3,273,407円
インデックス・ライフ・バランスファンド（成長型）VA	826,428円
インデックス・ライフ・バランスファンド（積極型）VA	862,685円
三菱UFJ 外国債券インデックスファンドVA	4,595,534円
三菱UFJ バランスVA30D（適格機関投資家限定）	4,766,758円
三菱UFJ バランスVA60D（適格機関投資家限定）	10,342,825円
三菱UFJ バランスVA30G（適格機関投資家限定）	6,757,500円
三菱UFJ バランスVA60G（適格機関投資家限定）	16,037,674円
外国債券インデックスファンドi（適格機関投資家限定）	4,261,455円
三菱UFJ <DC>外国債券インデックスファンド	1,814,549,396円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定型）	207,141,103円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（安定成長型）	568,350,379円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（成長型）	452,771,198円
三菱UFJ <DC>インデックス・ライフ・バランス ファンド（積極型）	177,993,145円
合計	178,024,488,587円
2. 受益権の総数	178,024,488,587口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 5年 3月12日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引</p>

区分	[令和 5年 3月12日現在]
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。</p> <p>（3）上記以外の金融商品</p> <p>上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p> <p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

[令和 5年 3月12日現在]

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	アメリカドル	76,172,400		76,121,600	50,800
	イギリスポンド	6,488,652		6,488,296	356
	オフショア円	7,396,852		7,391,304	5,548
	ユーロ	61,947,674		61,921,584	26,090
	売建				
中国元	5,312,196		5,268,429	43,767	
合計		157,317,774		157,191,213	39,027

（注）時価の算定方法

1 対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

為替予約の受渡日（以下「当該日」といいます。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は、当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。

当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

（イ）当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

（ロ）当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2 対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

（1口当たり情報）

	[令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	2.2625円

	[令和 5年 3月12日現在]
(1万口当たり純資産額)	(22,625円)

マネー・マーケット・マザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

[令和 5年 3月12日現在]

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	584,895,416
現先取引勘定	2,199,998,311
流動資産合計	2,784,893,727
資産合計	2,784,893,727
負債の部	
流動負債	
未払解約金	691,598
未払利息	573
流動負債合計	692,171
負債合計	692,171
純資産の部	
元本等	
元本	2,734,657,353
剰余金	
剰余金又は欠損金 ()	49,544,203
元本等合計	2,784,201,556
純資産合計	2,784,201,556
負債純資産合計	2,784,893,727

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

該当事項はありません。

(貸借対照表に関する注記)

	[令和 5年 3月12日現在]
1. 期首	令和 4年 9月13日
期首元本額	1,932,804,244円
期中追加設定元本額	1,856,804,059円
期中一部解約元本額	1,054,950,950円
元本の内訳	
三菱UFJ DC金利連動アロケーション型バランスファンド	531,587,644円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<円コース> (毎月分配型)	2,210,674円

[令和 5年 3月12日現在]

三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<米ドルコース>(毎月分配型)	2,590,474円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<ユーロコース>(毎月分配型)	111,354円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<豪ドルコース>(毎月分配型)	9,893,887円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース>(毎月分配型)	24,765,135円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランドコース>(毎月分配型)	282,290円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース>(毎月分配型)	1,074,934円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<マネーパールファンド>	41,180,075円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<中国元コース>(毎月分配型)	89,620円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<インドネシアルピアコース>(毎月分配型)	669,935円
三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<資源国バスケット通貨コース>(毎月分配型)	212,322円
PIMCO ニューワールド円インカムファンド(毎月分配型)	6,895,341円
PIMCO ニューワールド米ドルインカムファンド(毎月分配型)	1,378,553円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<豪ドルコース>(毎月分配型)	5,548,198円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<ブラジルリアルコース>(毎月分配型)	74,308円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<円コース>(毎月分配型)	3,857,128円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<米ドルコース>(毎月分配型)	1,339,040円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<豪ドルコース>(毎月分配型)	1,145,161円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース>(毎月分配型)	10,743,284円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<資源国バスケット通貨コース>(毎月分配型)	629,892円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<アジアバスケット通貨コース>(毎月分配型)	416,840円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<マネーパールファンド>	71,487,404円
三菱UFJ 欧州ハイイールド債券ファンド ユーロ円プレミアム(毎月分配型)	7,489,236円
欧州ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジあり)	2,515,903円
欧州ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジなし)	4,289,171円

	[令和 5年 3月12日現在]
PIMCO ニューワールドインカムファンド<メキシコペソコース>(毎月分配型)	4,489,124円
PIMCO ニューワールド円インカムファンド(年2回分配型)	30,651円
PIMCO ニューワールド米ドルインカムファンド(年2回分配型)	60,179円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<豪ドルコース>(年2回分配型)	50,114円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<ブラジルリアルコース>(年2回分配型)	20,635円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<メキシコペソコース>(年2回分配型)	278,281円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<メキシコペソコース>(毎月分配型)	665,580円
三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース>(毎月分配型)	1,149,232円
三菱UFJ 米国高配当株式プラス<為替ヘッジあり>(毎月決算型)	491,449円
三菱UFJ 米国高配当株式プラス<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	9,828,976円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型)	2,119,621円
PIMCO ニューワールドインカムファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型)	44,142円
バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(毎月決算型)	1,936,118円
バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	9,829円
バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)	9,829円
バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(年1回決算型)	9,829円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<円コース>(毎月分配型)	2,007,890円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<米ドルコース>(毎月分配型)	7,196,270円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<豪ドルコース>(毎月分配型)	1,491,640円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース>(毎月分配型)	2,299,085円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<メキシコペソコース>(毎月分配型)	845,131円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース>(毎月分配型)	1,016,827円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<ロシアルーブルコース>(毎月分配型)	2,895,129円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<円コース>(年2回分配型)	870,254円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<米ドルコース>(年2回分配型)	1,721,384円

[令和 5年 3月12日現在]

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<豪ドルコース>(年2回分配型)	215,434円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース>(年2回分配型)	490,224円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<メキシコペソコース>(年2回分配型)	382,241円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース>(年2回分配型)	125,118円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<ロシアルールブルコース>(年2回分配型)	208,430円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンドA>	61,996,251円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンドB>	1,355,177円
三菱UFJ / ピムコ トータル・リターン・ファンド<米ドルヘッジ型>(毎月決算型)	2,178,993円
三菱UFJ / ピムコ トータル・リターン・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	5,411,821円
三菱UFJ / ピムコ トータル・リターン・ファンド<米ドルヘッジ型>(年1回決算型)	1,020,693円
三菱UFJ / ピムコ トータル・リターン・ファンド<為替ヘッジなし>(年1回決算型)	2,065,331円
ピムコ・エマージング・ボンド・オープン Cコース(為替ヘッジなし)(年1回決算型)	521,457円
ピムコ・エマージング・ボンド・オープン Dコース(為替ヘッジあり)(年1回決算型)	217,015円
米国バンクローンファンド<為替ヘッジあり>(毎月分配型)	1,628,892円
米国バンクローンファンド<為替ヘッジなし>(毎月分配型)	5,812,610円
米国バンクローン・オープン<為替ヘッジあり>(毎月決算型)	3,545,187円
米国バンクローン・オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	8,124,755円
米国バンクローン・オープン<為替ヘッジあり>(年1回決算型)	2,990,177円
米国バンクローン・オープン<為替ヘッジなし>(年1回決算型)	3,377,211円
PIMCO インカム戦略ファンド<円インカム>(毎月分配型)	5,541,524円
PIMCO インカム戦略ファンド<円インカム>(年2回分配型)	2,711,846円
PIMCO インカム戦略ファンド<米ドルインカム>(毎月分配型)	8,067,104円
PIMCO インカム戦略ファンド<米ドルインカム>(年2回分配型)	3,319,056円
PIMCO インカム戦略ファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型)	13,122,469円
PIMCO インカム戦略ファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型)	1,616,484円
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)	2,724,520円

	[令和 5年 3月12日現在]
三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(年2回分配型)	1,171,788円
PIMCO 米国バンクローンファンド<円インカム>(毎月分配型)	10,787円
PIMCO 米国バンクローンファンド<円インカム>(年2回分配型)	10,795円
PIMCO 米国バンクローンファンド<米ドルインカム>(毎月分配型)	334,809円
PIMCO 米国バンクローンファンド<米ドルインカム>(年2回分配型)	177,761円
PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(毎月分配型)	230,764円
PIMCO 米国バンクローンファンド<世界通貨分散コース>(年2回分配型)	30,437円
三菱UFJ Jリート不動産株ファンド<米ドル投資型>(3ヵ月決算型)	3,063,931円
三菱UFJ Jリート不動産株ファンド<Wプレミアム>(毎月決算型)	6,324,266円
三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030(確定拠出年金)	1,681,976,356円
マクロ・トータル・リターン・ファンド	9,820円
米国バンクローンファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)	89,287円
米国バンクローンファンド<為替ヘッジなし>(資産成長型)	138,420円
テンブルトン新興国小型株ファンド	49,097円
ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド<限定為替ヘッジあり>(毎月決算型)	1,453,944円
ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド<限定為替ヘッジあり>(年2回決算型)	6,675,966円
ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	5,990,990円
ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド<為替ヘッジなし>(年2回決算型)	9,376,245円
欧州ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジあり)(年1回決算型)	169,198円
欧州ハイイールド債券ファンド(為替ヘッジなし)(年1回決算型)	87,384円
わたしの未来設計<安定重視型>(分配コース)	9,820円
わたしの未来設計<安定重視型>(分配抑制コース)	9,820円
わたしの未来設計<成長重視型>(分配コース)	9,820円
わたしの未来設計<成長重視型>(分配抑制コース)	9,820円
ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	9,821円
グローバル・インカム・フルコース(為替リスク軽減型)	983円
グローバル・インカム・フルコース(為替ヘッジなし)	983円
<DC>ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	9,821円
ベイリー・ギフォード インバクト投資ファンド	9,821円

	[令和 5年 3月12日現在]
<DC>ベイリー・ギフォード ESG世界株ファンド	9,822円
ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド（予想分配金提示型）	9,822円
ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド（予想分配金提示型）	9,822円
米国株式トレンド・ウォッチ戦略ファンド	983円
三菱UFJ インド債券オープン（毎月決算型）	39,351円
三菱UFJ / マッコーリー オーストラリアREITファンド<Wプレミアム>（毎月決算型）	97,104円
マネープールファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）	9,873,420円
ピムコ・グローバル・ハイイールド・ファンド（毎月分配型）	11,784,347円
ピムコ・エマージング・ボンド・オープン Aコース（為替ヘッジなし）	6,887,212円
ピムコ・エマージング・ボンド・オープン Bコース（為替ヘッジあり）	5,484,593円
三菱UFJ ターゲット・イヤーファンド 2030	6,344,661円
三菱UFJ <DC>ターゲット・イヤー ファンド 2030	63,888,440円
合計	2,734,657,353円
2. 受益権の総数	2,734,657,353口

当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区分	[令和 5年 3月12日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>（1）有価証券 売買目的有価証券は、該当事項はありません。</p> <p>（2）デリバティブ取引 デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>（3）上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[令和 5年 3月12日現在]
1口当たり純資産額	1.0181円
(1万口当たり純資産額)	(10,181円)

2【ファンドの現況】

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	18,016,288,355
負債総額	5,714,715
純資産総額（ - ）	18,010,573,640
発行済口数	15,658,119,984口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.1502
（10,000口当たり）	（11,502）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	9,108,220,712
負債総額	1,878,099
純資産総額（ - ）	9,106,342,613
発行済口数	8,071,244,889口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.1282
（10,000口当たり）	（11,282）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	9,139,311,451
負債総額	2,529,114
純資産総額（ - ）	9,136,782,337
発行済口数	6,950,329,007口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.3146
（10,000口当たり）	（13,146）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	5,742,075,266
負債総額	1,573,089
純資産総額（ - ）	5,740,502,177
発行済口数	4,721,602,685口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.2158
（10,000口当たり）	（12,158）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	5,866,129,352
負債総額	3,214,781
純資産総額（ - ）	5,862,914,571
発行済口数	4,178,280,681口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.4032
（10,000口当たり）	（14,032）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	3,023,013,857
負債総額	926,381
純資産総額（ - ）	3,022,087,476
発行済口数	2,394,642,596口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.2620
（10,000口当たり）	（12,620）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	2,406,774,963
負債総額	845,948
純資産総額（ - ）	2,405,929,015
発行済口数	1,784,630,932口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.3481
（10,000口当たり）	（13,481）

【三菱UFJ ターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）】

【純資産額計算書】

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	953,112,892
負債総額	18,258,552
純資産総額（ - ）	934,854,340
発行済口数	758,645,006口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.2323
（10,000口当たり）	（12,323）

（参考）

TOPIXマザーファンド

純資産額計算書

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	953,894,673,177
負債総額	43,949,368,958
純資産総額（ - ）	909,945,304,219
発行済口数	379,128,819,038口
1口当たり純資産価額（ / ）	2.4001
（10,000口当たり）	（24,001）

外国株式インデックスマザーファンド

純資産額計算書

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	2,255,819,832,230
負債総額	189,878,453
純資産総額（ - ）	2,255,629,953,777
発行済口数	472,783,237,040口
1口当たり純資産価額（ / ）	4.7710
（10,000口当たり）	（47,710）

日本債券インデックスマザーファンド

純資産額計算書

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	714,918,430,880
負債総額	7,268,098,583
純資産総額（ - ）	707,650,332,297
発行済口数	542,538,904,165口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.3043
（10,000口当たり）	（13,043）

外国債券インデックスマザーファンド

純資産額計算書

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	444,886,465,300
負債総額	16,718,942,723
純資産総額（ - ）	428,167,522,577
発行済口数	186,102,932,702口
1口当たり純資産価額（ / ）	2.3007
（10,000口当たり）	（23,007）

マネー・マーケット・マザーファンド

純資産額計算書

令和 5年 3月31日現在

（単位：円）

資産総額	2,858,505,916
負債総額	572
純資産総額（ - ）	2,858,505,344
発行済口数	2,807,646,041口
1口当たり純資産価額（ / ）	1.0181
（10,000口当たり）	（10,181）

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<更新後>

(1) 資本金の額等

2023年3月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近5年間における資本金の額の増減はありません。

(2) 委託会社の機構

・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

・投資運用の意思決定機構

投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

運用戦略の決定

運用戦略・管理委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

運用部門による自律的な運用管理

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、運用部門内の管理担当部署は逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。また、運用戦略・管理委員会を通じて運用状況のモニタリングを行い、運用部門内での自律的牽制により運用改善を図ります。

管理担当部署による運用管理

運用部から独立した管理担当部署は、(a)運用に関するパフォーマンス測定・分析、意図した運用成果が得られていない場合にはその原因の分析のほか、(b)リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、(a)についてはファンド管理委員会における審議を経て運用担当部・商品開発担当部にフィードバックされ、(b)についてはリスク管理委員会を通じて運用担当部にフィードバックされ、必要に応じて部署間連携の上で是正・改善の検討が行われます。

ファンドに関係する法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に関係する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、商品企画委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検

証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務を行っています。

2023年3月31日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	879	23,481,546
追加型公社債投資信託	16	1,418,837
単位型株式投資信託	91	407,169
単位型公社債投資信託	49	116,473
合計	1,035	25,424,025

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

3【委託会社等の経理状況】

<更新後>

(1) 財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJ国際投信株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和52年大蔵省令第38号）」（以下「中間財務諸表等規則」という。）第38条及び第57条の規定により、中間財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づき作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表に掲載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第37期事業年度（自 令和3年4

月1日 至 令和4年3月31日)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第38期事業年度に係る中間会計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第36期 (令和3年3月31日現在)		第37期 (令和4年3月31日現在)	
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	2	56,803,388	2	51,593,362
有価証券		2,001		293,326
前払費用		598,135		645,109
未収入金		31,359		61,092
未収委託者報酬		13,216,357		15,750,264
未収収益	2	662,230	2	783,790
金銭の信託		2,300,000		8,401,300
その他		269,506		295,584
流動資産合計		73,882,978		77,823,830
固定資産				
有形固定資産				
建物	1	548,902	1	391,042
器具備品	1	1,435,369	1	1,079,023
土地		628,433		628,433
有形固定資産合計		2,612,705		2,098,499
無形固定資産				
電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		3,569,171		4,381,293
ソフトウェア仮勘定		1,895,190		1,581,652
無形固定資産合計		5,480,184		5,978,768
投資その他の資産				
投資有価証券		18,616,670		16,803,642
関係会社株式		320,136		159,536
投資不動産	1	814,684	1	810,684
長期差入保証金		538,497		524,244
前払年金費用		258,835		189,708
繰延税金資産		916,962		982,406
その他		45,230		45,230
貸倒引当金		23,600		23,600
投資その他の資産合計		21,487,417		19,491,852
固定資産合計		29,580,307		27,569,120
資産合計		103,463,286		105,392,950

(単位：千円)

	第36期 (令和3年3月31日現在)		第37期 (令和4年3月31日現在)	
(負債の部)				
流動負債				
預り金		533,622		565,222
未払金				
未払収益分配金		158,856		197,334
未払償還金		133,877		7,418
未払手数料	2	5,200,810	2	6,423,139
その他未払金	2	4,412,521	2	4,565,457
未払費用	2	4,755,909	2	4,328,968
未払消費税等		752,617		1,112,923
未払法人税等		873,027		769,692
賞与引当金		933,381		942,287
役員賞与引当金		160,710		149,028
その他		691,143		5,517
流動負債合計		18,606,476		19,066,990
固定負債				
長期未払金		21,600		10,800
退職給付引当金		1,145,514		1,246,300
役員退職慰労引当金		117,938		117,938
時効後支払損引当金		245,426		250,214
固定負債合計		1,530,479		1,625,252
負債合計		20,136,956		20,692,243
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		2,000,131		2,000,131
資本剰余金				
資本準備金		3,572,096		3,572,096
その他資本剰余金		41,160,616		41,160,616
資本剰余金合計		44,732,712		44,732,712
利益剰余金				
利益準備金		342,589		342,589
その他利益剰余金				
別途積立金		6,998,000		6,998,000
繰越利益剰余金		26,951,289		29,000,498
利益剰余金合計		34,291,879		36,341,088
株主資本合計		81,024,723		83,073,932

(単位：千円)

	第36期 (令和3年3月31日現在)		第37期 (令和4年3月31日現在)	
--	-----------------------	--	-----------------------	--

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金	2,301,606	1,626,775
評価・換算差額等合計	2,301,606	1,626,775
純資産合計	83,326,329	84,700,707
負債純資産合計	103,463,286	105,392,950

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬		67,963,712		79,977,953
投資顧問料		2,443,980		2,711,169
その他営業収益		21,613		13,459
営業収益合計		70,429,306		82,702,582
営業費用				
支払手数料	2	26,689,896	2	31,644,834
広告宣伝費		668,150		720,785
公告費		250		500
調査費				
調査費		2,077,942		2,430,158
委託調査費		12,035,954		14,557,009
事務委託費		798,528		1,450,062
営業雑経費				
通信費		296,490		138,868
印刷費		378,180		379,428
協会費		51,841		49,590
諸会費		16,613		17,729
事務機器関連費		1,977,769		2,172,978
その他営業雑経費		8,391		649
営業費用合計		45,000,009		53,562,596
一般管理費				
給料				
役員報酬		352,879		414,260
給料・手当		6,461,546		6,496,233
賞与引当金繰入		933,381		942,287
役員賞与引当金繰入		160,710		149,028
福利厚生費		1,272,568		1,282,310
交際費		2,721		4,874
旅費交通費		22,768		21,698
租税公課		402,939		430,233
不動産賃借料		666,331		724,961
退職給付費用		481,135		494,615
役員退職慰労引当金繰入		11,763		-
固定資産減価償却費		1,358,911		2,249,287
諸経費		413,538		379,054
一般管理費合計		12,541,193		13,588,846

営業利益	12,888,103	15,551,139
------	------------	------------

(単位：千円)

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	
	営業外収益			
受取配当金		170,807		243,133
受取利息	2	2,726	2	7,408
投資有価証券償還益		81,557		1,089,101
収益分配金等時効完成分		275,835		137,485
受取賃貸料	2	65,808	2	65,808
その他		12,504		36,211
営業外収益合計		609,239		1,579,148
営業外費用				
投資有価証券償還損		95,946		3,074
時効後支払損引当金繰入		16,395		16,548
事務過誤費				76,076
賃貸関連費用		13,472		15,780
その他		2,932		7,585
営業外費用合計		128,747		119,066
経常利益		13,368,595		17,011,221
特別利益				
投資有価証券売却益		2,007,655		605,706
特別利益合計		2,007,655		605,706
特別損失				
投資有価証券売却損		51,737		28,188
投資有価証券評価損		26,317		36,558
固定資産除却損	1	536	1	13,094
特別損失合計		78,591		77,840
税引前当期純利益		15,297,659		17,539,087
法人税、住民税及び事業税	2	4,755,427	2	5,366,608
法人税等調整額		19,122		22,446
法人税等合計		4,736,304		5,389,054
当期純利益		10,561,354		12,150,032

(3) 【株主資本等変動計算書】

第36期(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	25,847,605	33,188,194	79,921,039
当期変動額									
剰余金の配当							9,457,670	9,457,670	9,457,670
当期純利益							10,561,354	10,561,354	10,561,354
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									

当期変動額合計							1,103,684	1,103,684	1,103,684
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,951,289	34,291,879	81,024,723

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,815	1,815	79,922,854
当期変動額			
剰余金の配当			9,457,670
当期純利益			10,561,354
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	2,299,791	2,299,791	2,299,791
当期変動額合計	2,299,791	2,299,791	3,403,475
当期末残高	2,301,606	2,301,606	83,326,329

第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本合計
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本 剰余金合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
						別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	26,951,289	34,291,879	81,024,723
会計方針の変更による累積的影響額							475,687	475,687	475,687
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	27,426,976	34,767,566	81,500,410
当期変動額									
剰余金の配当							10,576,511	10,576,511	10,576,511
当期純利益							12,150,032	12,150,032	12,150,032
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)									
当期変動額合計							1,573,521	1,573,521	1,573,521
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	29,000,498	36,341,088	83,073,932

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,326,329
会計方針の変更による累積的影響額			475,687
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,301,606	2,301,606	83,802,017
当期変動額			
剰余金の配当			10,576,511
当期純利益			12,150,032
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	674,831	674,831	674,831
当期変動額合計	674,831	674,831	898,690
当期末残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707

[注記事項]

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 其他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産及び投資不動産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～50年
器具備品	2年～20年
投資不動産	3年～47年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(6) 時効後支払引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

(1) 委託者報酬

投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しており

ます。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2)投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

7.その他財務諸表作成のための基礎となる事項

(1)連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(2)「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」の適用

令和2年度税制改正において従来の連結納税制度が見直され、グループ通算制度に移行する税制改正法（「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号））が令和2年3月31日に公布されておりますが、繰延税金資産の額について、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 令和2年3月31日）により「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日）第44項の定めを適用せず、改正前の税法の規定に基づいて算定しております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取り扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 令和3年8月12日）を適用する予定であります。

(会計方針の変更)

(1)収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡り適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、収益認識会計基準等の適用を行う前と比べて、当事業年度の貸借対照表は、流動負債のその他は484,886千円減少、繰延税金資産は148,472千円減少、繰越利益剰余金は336,414千円増加しております。

当事業年度の損益計算書は、委託者報酬、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ200,739千円減少しております。

当事業年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、株主資本等変動計算書の繰越利益剰余金の期首残高は475,687千円増加しております。

1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(2)時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 令和元年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、時価算定会計基準等の適用による、財務諸表への影響はありません。また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。

(未適用の会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日）

(1)概要

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第31号）の令和3年6月17日の改正は、令和元年7月4日の公表時において、「投資信託の時価の算定」に関する検討には、関係者との協議等に一定の期間が必要と考えられるため、また、「貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資」の時価の注記についても、一定の検討を要するため、「時価の算定に関する会計基準」公表後、概ね1年をかけて検討を行うこととされていたものが、改正され、公表されたものです。

(2)適用予定日

令和5年3月期の期首より適用します。

(3)当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(貸借対照表関係)

1.有形固定資産及び投資不動産の減価償却累計額

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
建物	643,920千円	805,250千円
器具備品	1,545,179千円	2,054,366千円
投資不動産	151,833千円	157,995千円

2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
預金	40,328,414千円	43,782,913千円
未収収益	14,138千円	13,741千円
未払手数料	772,495千円	836,105千円
その他未払金	3,425,136千円	3,887,520千円
未払費用	349,222千円	337,847千円

(損益計算書関係)

1.固定資産除却損の内訳

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
建物	-	2,599千円
器具備品	536千円	10,495千円
計	536千円	13,094千円

2.関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
支払手数料	5,128,270千円	5,153,589千円
受取利息	143千円	7,377千円
受取賃貸料	65,808千円	65,808千円
法人税、住民税及び事業税	3,492,898千円	4,062,765千円

(株主資本等変動計算書関係)

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

1.発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

2.配当に関する事項

(1) 配当金支払額

令和2年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	9,457,670千円
1株当たり配当額	44,700円
基準日	令和2年3月31日
効力発生日	令和2年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和3年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	10,576,511千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	49,988円
基準日	令和3年3月31日
効力発生日	令和3年6月29日

第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

令和3年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	10,576,511千円
1株当たり配当額	49,988円
基準日	令和3年3月31日
効力発生日	令和3年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

令和4年6月28日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

配当金の総額	6,075,125千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	28,713円
基準日	令和4年3月31日
効力発生日	令和4年6月29日

(リース取引関係)

借主側

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
1年内	709,808千円	709,808千円
1年超	709,808千円	414,054千円
合計	1,419,616千円	1,123,863千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、金銭の信託（合同運用指定金銭信託）で運用し、金融機関からの資金調達は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

第36期(令和3年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 有価証券	2,001	2,001	-
(2) 金銭の信託	2,300,000	2,300,000	-
(3) 投資有価証券	18,585,310	18,585,310	-
資産計	20,887,311	20,887,311	-

(注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式（前事業年度の貸借対照表計上額31,360千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額 子会社株式160,600千円 関連会社株式159,536千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第36期(令和3年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	56,803,388	-	-	-
金銭の信託	2,300,000	-	-	-
未収委託者報酬	13,216,357	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	2,001	8,412,286	3,123,026	11,398
合計	72,321,747	8,412,286	3,123,026	11,398

第37期(令和4年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 有価証券	293,326	293,326	-
(2) 金銭の信託	8,401,300	8,401,300	-
(3) 投資有価証券	16,772,282	16,772,282	-
資産計	25,466,909	25,466,909	-

(注1) 「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等

非上場株式（当事業年度の貸借対照表計上額31,360千円）は、市場価格がないため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

また、関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額 関連会社株式159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(注4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第37期(令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	51,593,362	-	-	-
金銭の信託	8,401,300	-	-	-
未収委託者報酬	15,750,264	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	293,326	6,911,464	3,695,585	-
合計	76,038,253	6,911,464	3,695,585	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

なお、財務諸表等規則附則（令和3年9月24日内閣府令第9号）に基づく経過措置を適用した投資信託（貸借対照表計上額 有価証券 293,326千円、投資有価証券16,772,282千円）は、次表には含めておりません。

時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	-	8,401,300	-	8,401,300
資産計	-	8,401,300	-	8,401,300

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類していません。

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

前事業年度の子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載していません。

また、当事業年度の関連会社株式（貸借対照表計上額は関連会社株式159,536千円）は、市場価格がないため、記載していません。

2. その他有価証券

第36期(令和3年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を	株式	-	-	-
	債券	-	-	-

超えるもの	その他	14,810,957	11,362,471	3,448,485
	小計	14,810,957	11,362,471	3,448,485
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	6,076,354	6,207,447	131,093
	小計	6,076,354	6,207,447	131,093
合計		20,887,311	17,569,919	3,317,392

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は2,300,000千円、取得原価は2,300,000千円）を含めております。

非上場株式（貸借対照表計上額は31,360千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、含めておりません。

第37期(令和4年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	19,193,250	16,560,340	2,632,910
	小計	19,193,250	16,560,340	2,632,910
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	6,273,658	6,561,836	288,177
	小計	6,273,658	6,561,836	288,177
合計		25,466,909	23,122,176	2,344,732

(注)「その他」には、貸借対照表の「金銭の信託」（貸借対照表計上額は8,401,300千円、取得原価は8,400,000千円）を含めております。

非上場株式（貸借対照表計上額は31,360千円）は、市場価格がないため、含めておりません。

3.売却したその他有価証券

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	5,747,529	2,007,655	51,737
合計	5,747,529	2,007,655	51,737

第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	4,164,921	605,706	28,188
合計	4,164,921	605,706	28,188

4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について26,317千円（その他有価証券のその他26,317千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について36,558千円（その他有価証券のその他36,558千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	
	退職給付債務の期首残高	3,718,736	千円	3,729,235
勤務費用	203,106		198,457	
利息費用	19,110		21,549	
数理計算上の差異の 発生額	18,826		46,069	
退職給付の支払額	192,890		179,650	
過去勤務費用の発生額	-		-	
退職給付債務の期末残高	3,729,235		3,723,521	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	
	年金資産の期首残高	2,460,824	千円	2,649,846
期待運用収益	44,130		47,588	
数理計算上の差異の 発生額	304,281		1,824	
事業主からの拠出額	-		-	
退職給付の支払額	159,390		115,331	
年金資産の期末残高	2,649,846		2,583,927	

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第36期 (令和3年3月31日現在)		第37期 (令和4年3月31日現在)	
	積立型制度の 退職給付債務	2,810,893	千円	2,675,015
年金資産	2,649,846		2,583,927	
	161,046		91,087	
非積立型制度の退職給付債務	918,342		1,048,506	
未積立退職給付債務	1,079,388		1,139,593	
未認識数理計算上の差異	161,333		205,679	
未認識過去勤務費用	354,043		288,681	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	886,678		1,056,591	
退職給付引当金	1,145,514		1,246,300	
前払年金費用	258,835		189,708	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	886,678		1,056,591	

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	
	勤務費用	203,106	千円	198,457

利息費用	19,110	21,549
期待運用収益	44,130	47,588
数理計算上の差異の 費用処理額	41,361	3,547
過去勤務費用の費用処理額	65,361	65,361
その他	44,446	109,013
確定給付制度に係る 退職給付費用	329,255	343,245

（注）「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額、再就職支援金及び退職金です。

(5)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
債券	62.7 %	62.0 %
株式	35.4	36.3
その他	1.9	1.7
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
割引率	0.051 ~ 0.59%	0.078 ~ 0.72%
長期期待運用収益率	1.5 ~ 1.8%	1.5 ~ 1.8%

3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度151,880千円、当事業年度151,370千円であります。

（税効果会計関係）

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第36期 (令和3年3月31日現在)	第37期 (令和4年3月31日現在)
繰延税金資産		
減損損失	418,394千円	410,082千円
投資有価証券評価損	188,859	65,490
未払事業税	180,263	165,702
賞与引当金	285,801	288,528
役員賞与引当金	25,472	25,799
役員退職慰労引当金	36,112	36,112
退職給付引当金	350,756	381,617
減価償却超過額	68,024	145,316
委託者報酬	209,938	-
長期差入保証金	48,639	52,869
時効後支払損引当金	75,149	76,615
連結納税適用による時価評価	38,873	35,311
その他	87,023	76,257
繰延税金資産 小計	2,013,308	1,759,702

評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	2,013,308	1,759,702
繰延税金負債		
前払年金費用	79,225	58,088
連結納税適用による時価評価	1,203	1,149
その他有価証券評価差額金	1,015,785	717,957
その他	101	101
繰延税金負債 合計	1,096,346	777,296
繰延税金資産の純額	916,962	982,406

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
第36期（令和3年3月31日現在）及び第37期（令和4年3月31日現在）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（収益認識関係）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（重要な会計方針）の6.収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）及び第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）及び第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注4)	科目	期末残高(注4)
親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税	連結納税に 伴う支払 (注1)	3,492,898 千円	その他未払金	3,425,136 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2)	5,128,270 千円	未払手数料	772,495 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	523,327 千円	未払費用	290,120 千円

第37期（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注4)	科目	期末残高(注4)
親会社	㈱三菱UFJ フィナンシャル・ グループ	東京都 千代田 区	2,141,513 百万円	銀行持株 会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税	連結納税に 伴う支払 (注1)	4,062,765 千円	その他未払金	3,887,520 千円
親会社	三菱UFJ 信託銀行㈱	東京都 千代田 区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 100.0%	当社投資信託の 募集の取扱及び 投資信託に係る 事務代行の委託 等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 (注2)	5,153,589 千円	未払手数料	836,105 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料 (注3)	499,388 千円	未払費用	272,264 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 連結納税制度に基づく連結法人税の支払予定額であります。

2. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

3. 投資助言料については、市場実勢を勘案して決定しております。

4. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第36期（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注2)	科目	期末残高(注2)
----	--------	-----	-----	-------	----------------	-----------	-------	----------	----	----------

同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	3,729,785 千円	未払手数料	764,501 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	5,655,482 千円	未払手数料	1,193,245 千円

第37期(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(注2)	科目	期末残高(注2)
同一の親会社を持つ会社	㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	4,097,951 千円	未払手数料	838,058 千円
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払(注1)	7,025,984 千円	未払手数料	1,319,958 千円

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

2. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

三菱UFJ信託銀行株式会社(非上場)

(1株当たり情報)

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
--	-------------------------------------	-------------------------------------

1株当たり純資産額	393,827.09円	400,322.84円
1株当たり当期純利益金額	49,916.36円	57,424.97円

(注)1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2. 「会計方針の変更」に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号令和2年3月31日)等を適用し、「収益認識に関する会計基準」第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当事業年度の1株当たり純資産額は2,248.25円増加し、1株当たり純利益金額は658.24円減少しております。

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第36期 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	第37期 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
当期純利益金額 (千円)	10,561,354	12,150,032
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額 (千円)	10,561,354	12,150,032
普通株式の期中平均株式数 (株)	211,581	211,581

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第38期中間会計期間 (令和4年9月30日現在)	
(資産の部)	
流動資産	
現金及び預金	48,375,193
有価証券	270,676
前払費用	804,517
未収入金	78,340
未収委託者報酬	16,141,814
未収収益	751,362
金銭の信託	10,401,500
その他	264,566
流動資産合計	77,087,971
固定資産	
有形固定資産	
建物	1 285,704
器具備品	1 898,241
土地	628,433
建設仮勘定	39,450
有形固定資産合計	1,851,829
無形固定資産	
電話加入権	15,822
ソフトウェア	4,470,447
ソフトウェア仮勘定	1,585,322
無形固定資産合計	6,071,592
投資その他の資産	
投資有価証券	14,693,980
関係会社株式	159,536
投資不動産	1 809,716
長期差入保証金	1,204,923
前払年金費用	154,270
繰延税金資産	1,369,880

その他		45,230
貸倒引当金		23,600
投資その他の資産合計		18,413,938
固定資産合計		26,337,361
資産合計		103,425,332

(単位：千円)

第38期中間会計期間

(令和4年9月30日現在)

(負債の部)

流動負債

預り金		1,783,230
未払金		
未払収益分配金		112,635
未払償還金		7,418
未払手数料		6,226,860
その他未払金		575,030
未払費用		5,329,791
未払消費税等	2	592,374
未払法人税等		2,634,965
賞与引当金		954,015
役員賞与引当金		86,040
その他		5,517
流動負債合計		18,307,880

固定負債

退職給付引当金		1,299,571
役員退職慰労引当金		75,667
時効後支払損引当金		261,505

固定負債合計		1,636,744
--------	--	-----------

負債合計		19,944,625
------	--	------------

(純資産の部)

株主資本

資本金		2,000,131
資本剰余金		
資本準備金		3,572,096
その他資本剰余金		41,160,616
資本剰余金合計		44,732,712

利益剰余金		
利益準備金		342,589

その他利益剰余金		
別途積立金		6,998,000

繰越利益剰余金		28,593,826
---------	--	------------

利益剰余金合計		35,934,416
---------	--	------------

株主資本合計		82,667,260
--------	--	------------

(単位：千円)

第38期中間会計期間

(令和4年9月30日現在)

評価・換算差額等

その他有価証券評価差額金		813,447
--------------	--	---------

評価・換算差額等合計		813,447
------------	--	---------

純資産合計		83,480,707
-------	--	------------

負債純資産合計		103,425,332
---------	--	-------------

(2)中間損益計算書

(単位：千円)

第38期中間会計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	40,789,208
投資顧問料	1,442,097
その他営業収益	5,655
営業収益合計	42,236,961
営業費用	
支払手数料	15,949,349
広告宣伝費	237,620
公告費	250
調査費	
調査費	1,359,939
委託調査費	7,988,301
事務委託費	709,248
営業雑経費	
通信費	64,639
印刷費	194,724
協会費	27,550
諸会費	9,245
事務機器関連費	1,088,738
営業費用合計	27,629,607
一般管理費	
給料	
役員報酬	204,466
給料・手当	2,770,641
賞与引当金繰入	954,015
役員賞与引当金繰入	86,040
福利厚生費	637,045
交際費	4,351
旅費交通費	22,970
租税公課	219,318
不動産賃借料	362,988
退職給付費用	193,777
固定資産減価償却費	1,198,877
諸経費	182,304
一般管理費合計	6,836,796
営業利益	7,770,556

(単位：千円)

第38期中間会計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)	
営業外収益	
受取配当金	31,240
受取利息	5,115
投資有価証券償還益	780
収益分配金等時効完成分	93,217
受取賃貸料	32,904
その他	32,041
営業外収益合計	195,299
営業外費用	

時効後支払損引当金繰入		39,158
事務過誤費		1,807
賃貸関連費用	1	6,770
その他		11,805
営業外費用合計		59,541
経常利益		7,906,314
特別利益		
投資有価証券売却益		364,481
特別利益合計		364,481
特別損失		
投資有価証券売却損		338
投資有価証券評価損		104,554
固定資産除却損		3,528
特別損失合計		108,421
税引前中間純利益		8,162,374
法人税、住民税及び事業税		2,522,443
法人税等調整額		28,522
法人税等合計		2,493,921
中間純利益		5,668,453

(3) 中間株主資本等変動計算書

第38期中間会計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	29,000,498	36,341,088	83,073,932
当中間期変動額									
剰余金の配当							6,075,125	6,075,125	6,075,125
中間純利益							5,668,453	5,668,453	5,668,453
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計							406,671	406,671	406,671
当中間期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	28,593,826	35,934,416	82,667,260

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,626,775	1,626,775	84,700,707
当中間期変動額			
剰余金の配当			6,075,125
中間純利益			5,668,453
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	813,328	813,328	813,328
当中間期変動額合計	813,328	813,328	1,220,000
当中間期末残高	813,447	813,447	83,480,707

[重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

- (2) その他有価証券
市場価格のない株式等以外のもの
中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。
市場価格のない株式等
移動平均法による原価法を採用しております。
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法
時価法を採用しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
- (1) 有形固定資産及び投資不動産
定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
- | | |
|-------|--------|
| 建物 | 5年～50年 |
| 器具備品 | 2年～20年 |
| 投資不動産 | 3年～47年 |
- (2) 無形固定資産
定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
4. 引当金の計上基準
- (1) 貸倒引当金
貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金
従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (3) 役員賞与引当金
役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。
退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。
- (5) 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。
- (6) 時効後支払損引当金
時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。
5. 収益および費用の計上基準
当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主要な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。
- (1) 委託者報酬
投資信託の信託約款に基づき信託財産の運用指図等を行っております。委託者報酬は、純資産総額

に一定の報酬率を乗じて日々計算され、確定した報酬を投資信託によって主に年2回受領しております。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2)投資顧問料

顧客との投資一任及び投資助言契約に基づき運用及び助言を行っております。投資顧問料は、純資産総額に一定の報酬率を乗じて計算され、確定した報酬を主に年4回受領しております。当該報酬は契約期間にわたり収益として認識しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

当中間会計期間からグループ通算制度を適用しております。

[会計方針の変更]

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、時価算定会計基準適用指針の適用による、中間財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

当社は、当中間会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

[注記事項]

(中間貸借対照表関係)

1 減価償却累計額

	第38期中間会計期間 (令和4年9月30日現在)
建物	903,274千円
器具備品	2,258,329千円
投資不動産	161,052千円

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

	第38期中間会計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
有形固定資産	321,137千円
無形固定資産	877,740千円
投資不動産	3,057千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第38期中間会計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

2. 配当に関する事項

令和4年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	6,075,125千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	28,713円
基準日	令和4年3月31日
効力発生日	令和4年6月29日

（リース取引関係）

第38期中間会計期間(令和4年9月30日現在)

借主側

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	880,111千円
1年超	1,932,485千円
合計	2,812,596千円

（金融商品関係）

第38期中間会計期間(令和4年9月30日現在)

1. 金融商品の時価等に関する事項

令和4年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 有価証券	270,676	270,676	-
(2) 金銭の信託	10,401,500	10,401,500	-
(3) 投資有価証券	14,662,620	14,662,620	-
資産計	25,334,797	25,334,797	

（注1）「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払手数料」については短時間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注2）市場価格のない株式等

非上場株式（中間貸借対照表計上額31,360千円）は、市場価格がないため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 関連会社株式159,536千円）は、市場価格がないため、記載していません。

（注3）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券	-	270,676	-	270,676
金銭の信託	-	10,401,500	-	10,401,500
投資有価証券	1,743,912	12,918,707	-	14,662,620
資産計	1,743,912	23,590,884	-	25,334,797

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

ETF（上場投資信託）は相場価格を用いて評価しております。ETFは活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ETF（上場投資信託）以外の投資信託は基準価額を用いて評価しております。基準価額は観察可能なインプットを用いて算出しているため、レベル2の時価に分類しております。

金銭の信託

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

第38期中間会計期間（令和4年9月30日現在）

1. 子会社及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 関連会社株式159,536千円）は、市場価格がないため、記載しておりません。

2. その他有価証券

	種類	中間貸借対照表 計上額（千円）	取得原価 （千円）	差額（千円）
中間貸借対照表 計上額が取得原価 を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	17,920,574	16,110,224	1,810,349
	小計	17,920,574	16,110,224	1,810,349
中間貸借対照表 計上額が取得原価 を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	7,414,223	8,052,120	637,897
	小計	7,414,223	8,052,120	637,897
合計		25,334,797	24,162,345	1,172,451

（注）「その他」には、中間貸借対照表の「金銭の信託」（中間貸借対照表計上額10,401,500千円、取得価額10,400,000千円）を含めております。

非上場株式（中間貸借対照表計上額31,360千円）については、市場価格がないため、含めておりません。

3. 減損処理を行った有価証券

当中間会計期間において、有価証券について104,554千円（その他有価証券のその他104,554千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益及び契約から生じるキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に当該収益を分解した情報については、重要性が乏しいため記載を省略しており

ます。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

第38期中間会計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第38期中間会計期間（自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第38期中間会計期間 (令和4年9月30日現在)
1株当たり純資産額	394,556.72円
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	83,480,707
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	83,480,707
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数(株)	211,581

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第38期中間会計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	26,790.93円
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	5,668,453
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	5,668,453
普通株式の期中平均株式数(株)	211,581

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

5【その他】

<訂正前>

定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

<訂正後>

定款の変更等

定款について2023年10月1日付で以下の変更を行います。

・商号の変更（三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更）

訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<更新後>

(1) 受託会社

名称：三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

資本金の額：324,279百万円（2022年9月末現在）

事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (2022年9月末現在)	事業の内容
株式会社三菱UFJ銀行	1,711,958 百万円	銀行業務を営んでいます。
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279 百万円	銀行業務および信託業務を営んでいます。
信金中央金庫	690,998 百万円	金融業務を営んでいます。
アイザワ証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
松井証券株式会社	11,945 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
損保ジャパンDC証券株式会社	3,000 百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

信金中央金庫の資本金の額は「出資金」を記載しております。

3【資本関係】

<訂正前>

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。（2022年9月末現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%（211,581株）を所有しています。

（注）関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

<訂正後>

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。（2023年3月末現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の100.0%（211,581株）を所有しています。

(注) 関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2030（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2035（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2040（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2045（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2050（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2055（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2060（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和5年5月17日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PWCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 西郷 篤
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）の令和4年9月13日から令和5年3月12日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJターゲット・イヤー・ファンド2065（確定拠出年金）の令和5年3月12日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する中間計算期間（令和4年9月13日から令和5年3月12日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

令和4年6月10日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社
員 業務執 公認会計士 青 木 裕 晃
行社員

指定有限責任社
員 業務執 公認会計士 伊 藤 鉄 也
行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の令和4年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

令和4年12月2日

三菱UFJ国際投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 青木 裕 晃

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 伊藤 鉄也

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの第38期事業年度の中間会計期間（令和4年4月1日から令和4年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の令和4年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（令和4年4月1日から令和4年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。